

平和・共生 個性・創造 自立・発展

沖縄国際大学

Okinawa International University



100号記念特集号



学報第100号 (2013.4.1発行)

CONTENTS

第42回入学式/第17回大学院入学式

学長式辞	02
大学院研究科長メッセージ	02
学部長メッセージ	03
学科長メッセージ	04
第2回ホームカミングデーを開催	05
創立40周年記念事業 各研究所で開催	05
経済同友会教育問題委員会との意見交換会を開催	05
学生部だより	
学生部長メッセージ	06
平成24年度 体育系サークルの主な実績	06
平成24年度 文化系サークルの主な実績	07
体育系クラブ活動紹介	07
文化系クラブ活動紹介	07
卒業生メッセージ	08
体育会:平成23年度決算書/平成24年度予算書	08
文化会:平成23年度決算書/平成24年度予算書	08
平成24年度就職状況	09
就職活動体験記	09
平成25年度各種資格試験対策講座等スケジュール	10
外国語センター	10
国外留学/海外語学・文化セミナー/国外協定校派遣留学	11
国内留学	11

学報 第100号記念特別企画

バックナンバーで振り返る学報の歴史	12
第41回卒業式/第15回大学院修了式	16
学生表彰	16
卒業生メッセージ	17
平成24年度 卒業生数・修了生数	17
第42回 入学式・学生表彰	18
第29回NHK全国大学放送コンテスト「音声CM部門」第1位	18
学生インタビュー	18
臨床心理士資格試験に4名が合格	19
あじまー36(アリカワコウヘイ!)	19
学内人事	
退職教職員紹介/採用教職員紹介	20
退職・退任・併任等・昇任・配置換	20
沖縄国際大学学生サポート基金等寄付者一覧	21
計報	21
平成25年度事業計画	22
平成25年度予算(概要)	23
寄付者一覧	24
2013(平成25)年度 入学選抜試験結果	24
2013(平成25)年度 大学院入学試験 志願者数・合格者数	24

入学式 / 大学院入学式

学長式辞



学長

大城 保
おお しろ たもつ

学部新入生の皆さん、大学院新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。多くの大学の中から沖縄国際大学を選んでいただき、ありがとうございます。大学関係者一同、皆さんを心から歓迎いたします。これから学部4年間、大学院2年間、皆さんの努力と成長に大きな期待を寄せています。大学としても、皆さんの期待に応えるために、学修環境・研究環境をなお一層充実させていきたいと考えております。

さて、平成24年の世相を表す漢字一文字に「金」が選ばれました。ロンドンオリンピックにおける金メダルの獲得数が過去最大で、銀座通りでの凱旋パレードに国民の多くが熱狂したことが大きな要因になったようであります。私としては、新万能細胞「iPS細胞」を作製した山中伸弥京都大学教授のノーベル賞受賞が大金星であるように思います。生命体の出発である受精卵を壊してつくる

大学院研究科長メッセージ



地域文化研究科長
稲福 みき子
(いなぶく みきこ)

新たな知の世界へ — 粘り強く

大学院は、知の研鑽と創造の場です。さらに、本研究科では学問を通じて獲得した専門的な知識と広い視野を社会に還元し、社会の発展に寄与することを目標に掲げています。新たな知の世界への第一歩を踏み出すみなさんが、自らの課題と真剣に向き合い、粘り強く、強い意志を持って新しい地平を切り開いていかれることを期待します。



地域産業研究科長
佐久本 朝一
(さくもと ともかず)

斬新な環境を創造する 企業者精神を磨く

地域産業研究科に入学した皆様には、4年間の大学生活に満足することなく、これから本大学院で研鑽しようとしている志に厚く敬意を表します。

本研究科では、高度に情報化されたグローバル経済下で、商業、経済、経営、会計および情報といった各専門分野からインターナショナルな分析能力の育成を目指しており、その方法として、これからの修士課程で斬新な環境を創造しうる企業者精神を磨くことを重要視しています。

その結果として皆様が将来、企業経営者や研究員、教員、公務員、税理士あるいは中小企業診断士など地域社会のスペシャリストとして、ご活躍できるよう期待しています。



法学研究科長
小西 由浩
(こにし よしひろ)

穴を掘る

学問という営為は、穴を掘る作業に似ています。掘った先に水脈があるのか、はたまた金鉱にぶち当たるのか。往々にしてお目当てとは違うものに行き当たることもあります。早くに掘り当てた人は幸いですが、そうでないときは穴は大きく深くなるばかり。傍目にはバカげた営みに映るかもしれませんが、しかし、それ程あるものに熱中できる時期を持てることは幸せでもありましょう。ご健闘を。

ES 細胞とは違って、皮膚等になった細胞の生成プロセスを逆戻りさせて初期化し、受精卵のように再び何にでも育つ細胞が、iPS 細胞です。細胞生成プロセスを逆戻りさせることができることを、iPS 細胞は証明しています。まさに生命理解における革命といえるものであると思います。

その道に一つだけの金メダルやノーベル賞はどうすれば獲得できるのでしょうか。その道を究めた者だけがチャンスを得ることができます。どうすればその道を究められるのでしょうか。それは「努力に勝る天才なし」であります。私は、「わかる・できる・やる」の三つは次元の異なる能力であると思います。「わかる」とは、情報をキャッチして内容を理解することです。「できる」とは理解した情報を分析して目的実現の可能性を判断することです。「やる」とは実現できると判断したことを集中して実行し現実にするということです。これら三つの能力が組み合わさって相乗効果

が働くように、「工夫・改良・改善・改革」の努力を積み重ねていくことによって、成果が生まれるものだと思います。その素晴らしい成果が、結果として金メダルやノーベル賞につながるのであります。

新入生の皆さん、皆さんが目指す道を究めていく一歩として、学部学科、大学院において、理解力・判断力・実行力の習得のために、頑張ってください。本学教職員一同、皆さんの努力を支援し応援していくことをお約束いたします。

結びに、ご出席のご父母ご家族の皆様の慶びに満ちたお顔を拝見いたしますと、心からお祝い申し上げますという気持ちと、大学の責任の重さを痛感いたします。新入生の皆さんの成長と頑張りに、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

学部長メッセージ



法学部長
前津 榮健(まえつ えいけん)

夢実現に向け、勉学に励もう

入学おめでとうございます。社会は今めまぐるしく変動しています。社会のルールである法律や政治・行政の仕組みをしっかりと習得すると共に、基本的なマナーを身に付けてください。これからの4年間、将来の夢の実現に向け、友や先生方と語り、学生の本分を忘れることなく真剣に勉学に励むことを期待します。



経済学部長
名城 敏(なしろ さとし)

悔いのない学生生活を送ろう

入学おめでとうございます。大学にて知恵・知識を学び、資格等を取ることも大切ですが、県内外および国外出身の学生と接して異なる異文化を学ぶことも大切です。大学で何を学ぶのか何が出来るかを考えながら悔いのない学生生活を送ってください。大学は人脈を広げる場でもあります。将来の目標達成のために多くの人々と接し、社会でたくましく生きる術を学んで下さい。



産業情報学部長
宮森 正樹(みやもり まさき)

主体的に生きる

入学おめでとうございます。これから新しい4年間が始まります。みなさんはこれまで6年間、3年間、3年間と勉学を続けてきました。そしてついに社会に旅立つ一歩手前の大学にたどり着いたのです。今、大切なことは主体的に生きることです。大学は、言われて何かをやるどころではありません。自分から将来を見据えて、それに向けて自主的に動き、学び、吸収するところです。どんな荒波にさらされても乗り越えられる力と主体性をしっかりと身につけてください。産業情報学部全体で応援いたします。



総合文化学部長
保良 昌徳(やすら しょうとく)

大学の使命・私たちの使命

大学は、その国や社会に必要な人材養成と同時に、新時代を切り拓く知識や技術、新しい価値を創造する重要な使命・役割を担い、そのため可能な限り高度な教え学ぶ場の整備に努めています。新入生の皆さんが、このような大学や自らの使命を再認識し、知識や技術の修得だけでなく、様々な課題や社会問題に取り組み、新しい方法や知見の開発・創造に寄与する人材に育つことを期待しています。



法律学科長
芝田 秀幹 (しばた ひでき)

人生の目標

人生の目標は、良き友人を見つける、1冊の良き書物にあたる、一人の良き異性を見つける、良き酒を飲む(成人後)、一つの良き物語をもつ、に尽きます。が、全てを実現するのは至難の業。大学でぜひその模索を始めて下さい。祝入学。



産業情報学科長
池宮城 尚也 (いけみやぎ なおや)

日々を大切に

入学おめでとうございます。大学生活は社会人になるための準備期間と言えます。勉強・アルバイト・余暇と、全てを自分で決めて行動するからです。どの様な社会人になりたいか、どの職種に就きたいか、卒業後の目標を常に持って、日々を大切に活かしましょう。4年間は皆さんの想像以上に早いですよ。



地域行政学科長
上江洲 純子 (うえず じゅんこ)

新たな扉を開くために!

ご入学おめでとうございます。あなたは今、新たな世界へ通じる扉を開けて一歩踏み出したところです。これから学び、経験すること全てが、次に開くべき扉を示すヒントとなるでしょう。途は1つではありません。4年後、最良の答えを導き出せるよう仲間達と一緒に頑張っていきましょう。



日本文化学科長
西岡 敏 (にしおか さとし)

若い力で体得すべし!

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。大学では様々なことに挑戦することができます。真剣に学び、悩み、励むことによって、皆さんの未来は開けてくるはずですよ。これからの4年間、初心を忘れず、失敗を恐れず、まさしく本物だと思えるものをしっかりと身につけてください。



経済学科長
宮城 和宏 (みやぎ かずひろ)

様々なことにチャレンジ

大学の4年間はあっという間です。のんびり構えていると気が付いたら卒業ということになりかねません。「思い立ったが吉日」、後で後悔しないよう4年間の目標・計画を立て、今すぐ実行しましょう。様々なことにチャレンジし、能力的にも人間的にも大きく成長されることを期待しております。



英米言語文化学科長
素民喜 琢磨 (すみんき たくま)

英語の環境を作りましょう

皆さんは英語を身につけたいという夢を持っているでしょう。英語の環境を作るには、友達と英語で話したり、英語の映画を見たり、そして、何より英語を読む習慣を作ることです。自分のレベルに合わせて読む可能性が広がるグレイデッド・リーダーズは大変お勧めです。図書館のB2階/書庫3 一般図書(洋書) 837.7/OXF/にあります。



地域環境政策学科長
根路銘 もえ子 (ねろめ もえこ)

出会いを大切に、積極的に行動を!

大学での様々な出会いは皆さんにとって貴重な財産となります。その出会いを大切にしましょう。また、大学はいろいろな事を体験できる場でもあります。大学生だからこそできる事を見つけて是非積極的に行動して下さい。



社会文化学科長
澤田 佳世 (さわだ かよ)

“知的格闘”を楽しめ!!

“自ら問い、自ら学ぶ”、大学は自由な学問の場です。たくさん本を読み、様々な人間と交わり、多様性と異質性を楽しめる“温かい知性”を育みましょう。“知への感性”と“未知への勇気”が、あなたの世界を広げます。



企業システム学科長
李 ヒョンジョン (い ひょんじョン)

自ら学びを獲得する4年間を!

ご入学おめでとうございます。大学は、自分のやり方次第で結果は大きく変わるものです。今日から「知りたい! やりたい! 挑戦したい!」という意欲と行動力を常に持ち続けることで、大学生活でできる学びをしっかりと獲得し、4年後の自分につなげていきましょう。



人間福祉学科長
平山 篤史 (ひらやま あつし)

体験する全てが“学び”に

大学で何が学べるのか? 同じものを見て、同じことを聞いても、そこから何を考え、何を感じるのかは一人一人異なります。そう考えると、'学び'を得るためには、あなたが体験したことの中から、あなた自身がどのような意味を見出すかが重要となります。大学生活の中からあなたにとって大切な意味を見出して下さい。私たちはそれを応援します。

第2回 ホームカミングデーを開催

2月23日、体育館にて「第2回ホームカミングデー “沖国大へめんそーれ♪”」が開催されました。

上原秀雄校友会会長は「再び恩師の先生方をはじめ、卒業生の皆さまと一堂に会し、この意義ある日を迎えられたことを大変嬉しく思っています。」と挨拶しました。

引き続き第二部では、恩師との懇談やゼミ会での語らいの中、琉球芸能文学研究会、吹奏楽部、タヒチアンダンス、ジュンギルモウル、空手道部、鼓舞楽団浦風、琉球風車、ロッククラブ、伊藤幸太氏・仲宗根創氏、ひがけい子 & 島太鼓シュビーズのみなさまによる芸能祭で、会場は大いに盛り上がりました。

ご参加いただきましたOB、OGの皆さまご来場ありがとうございました。



創立40周年記念事業 各研究所で開催

南島文化研究所では、毎年行っている地域学習を本学創立40周年記念事業として、7月8日に本学が所在している宜野湾市宜野湾及び近隣の佐真下・我如古区域についてフィールドワークを実施しました。また学術交流協定10周年を迎える福建師範大学中琉関係研究所との学術交流講演会も同事業として11月17日に「中琉交流史の新天地—協定締結10年を振り返って—」を開催しました。

沖縄経済環境研究所では、8月4日に「沖縄返還交渉の舞台裏—政策担当者の証言—」をテーマに、沖縄の施政権の日本移管について当時の返還交渉の担当者をお招きし、「復帰」の舞台裏を検証するフォーラムを開催しました。

産業総合研究所では、12月1日に「沖縄における情報産業の現状と将来展望—人材育成と東南アジア戦略の観点から—」をテーマに、情報産業界・各分野での専門家をお招きし、フォーラムを開催しました。

沖縄法政研究所では、創立40周年記念事業として「復帰」

「琉球政府」「米軍統治下」をキーワードに、11月6日に講演会「『復帰40年』屋良朝苗が遺したもの」、11月17日にシンポジウム「『復帰40年』琉球政府の経験と沖縄の自治」、12月14日に研究会「米軍統治下における沖縄の『保守』政党とアメリカ」、2月26日に「琉球政府の性格—主として財政の視点から」、3月9日に講演会「『復帰40年』失望と挫折を乗り越えて—全軍労闘争から国政へ—」を開催しました。

同事業の最終回の講演会では、沖縄市総務課市史編集担当のご協力により、写真展も開催しました。



法政研・フロアからの質問を受ける上原康助氏

経済同友会教育問題委員会との意見交換会を開催



1月21日、本学と経済同友会教育問題委員会との意見交換会が行われました。意見交換会には本学から理事長・学長、副学長、常務理事、学生、卒業生を含む関係者11名が参加し、活発な意見を交わしました。

また、5号館屋上から普天間基地の視察も行いました。

主な内容は以下のとおり

- ・本学の目指す教育の方向性における現状課題と政府産業界に期待すること（狩俣恵一副学長）
- ・卒業生の進路における課題と対策（山入端津由学生部長）
- ・本学における「産官学連携の状況」について（宮森正樹産業情報学部長、平良直之教授、砂川徹夫教授）
- ・沖縄ファミリーマートとの弁当開発に関する学Pリーグの取り組み（学生：照屋綾海さん）
- ・キッズニア開催の経緯と今後の課題について（2010年度卒業生：砂川成樹さん）

学生部だより

学生部長メッセージ



学生部長
山入端 津由
(やまのは つよし)

新入生のみな様、ご入学おめでとうございます。みな様の学生生活をサポートする学生部を代表して、歓迎のメッセージをお届けいたします。

大学入学を選択されたみな様にとりまして、これから大学という枠での新しい出会いが始まります。みな様は、これまで幼稚園、小学校、中学校、高等学校といった仲間との4つの重要な出会いの場を経験してきました。新しい大学の場における出会いの場で、みな様は社会人になるための最終の総仕上げをすることになります。

ところで、自伝的記憶という心理学用語があります。みな様がこれまで歩んできた生活体験に関する全ての記憶のことです。われわれは、この記憶があるからこそ、昨日の自分と今日の自分が同じであることを認識できます。また、出会った人々との関係を意味づけ、続けることができます。さらに、自分がどこに出で、どのように歩んできて、これからの生活を方向づけることができるのです。

大学生活は自伝的記憶過程で大きな人生の転機を果たすことができる重要な機会です。人生の方向や、生き方を決めるわけですから、きっと悩みは尽きないでしょう。こういう意味で大学生活は、「自分探しの旅」のようなものです。「私」は、どのような生き方をを目指すか。なにを学び、どのようなキャリアを形成するか。どのような仲間関係を築くことができるか。いま、自分は、どういう自分でありたいのか。どういう自分にはなりたくないのか。なりたい社会人となるために、学び、思考し、行動する大切なターニングポイントが大学生活なのです。

人生という道は、ますます登りにくい階段を登るようなものです。このような道に向かうみな様に対して、本学では、みな様が自らを成長させ、生き抜くために、使い勝手のある支援装置を準備しております。まず、日常の教職員や学生との交流を通して行われる「日常学生支援」があります。事務職員は、学生サービスの窓口で、懇切丁寧にみな様に相談・助言・支援を行います。みな様がキャンパスライフをスムーズに送ることができるようにするためです。

二つ目は、各学科の十数名の仲間がアカデミック・アドバイザーと称する教員を中心にグループを作り、科目の学習を含め、様々な大学生活のための相談・助言・支援を行う「制度化された学生支援」です。共に学び、合宿を行い、支え合って課題を遂行する親密な集団が形成されます。

三つ目は、学習、キャリア、保健・健康管理、学生の悩み相談などのサービスを行う「専門的學生支援」です。特にキャリア支援（就職活動など）、健康管理、悩み相談に重点を置いております。もちろん、これらに絡んでの経済生活に係る相談も大切な課題として行います。われわれは、三層のこのような仕組みがみな様にとって使い勝手のある支援システムとなるように努力を続けております。どうぞ、これらのシステムを活用して自らの人生にとって意味のある転機点となるようにしてください。みな様のご躍進を期待いたします。

体育系サークルの主な実績

1	陸上競技部	第 82 回九州学生陸上競技対抗選手権大会：3000 m SC 1 位（上原光司）※インカレ出場 第 5 回沖縄県男子総合駅伝競走大会：優勝（4 連覇）
2	硬式野球部	第 6 回沖縄県大学野球夏季トーナメント：準優勝 第 14 回沖縄県大学野球フレッシュリーグ戦：優勝
3	軟式野球部	第 35 回全日本大学軟式野球選手権大会：ベスト 8
4	男子バレーボール部	平成 24 年度九州大学春季バレーボール男子リーグ大会：4 位（2 部） 平成 24 年度九州大学秋季バレーボール男子リーグ大会：2 位（2 部）
5	女子バレーボール部	平成 24 年度九州大学春季バレーボール女子リーグ大会：4 位（5 部）
6	ビーチバレー部	第 24 回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会：7 位
7	男子ハンドボール部	平成 24 年度九州学生ハンドボールリーグ秋季大会：3 位（1 部）※インカレ出場
8	女子ハンドボール部	平成 24 年度九州学生ハンドボールリーグ春季大会：4 位（1 部） 平成 24 年度九州学生ハンドボールリーグ秋季大会：4 位（1 部）
9	卓球部	第 63 回全九州学生春季選手権大会：女子団体 6 位（1 部）、男子団体 1 位（2 部） 第 63 回全九州学生秋季選手権大会：女子団体 5 位（1 部）、男子団体 4 位（2 部）
10	硬式テニス部	平成 24 年度春季学生リーグ：男子団体（優勝） 平成 24 年度秋季学生リーグ：男子団体（優勝）
11	空手道部	世界空手道連盟（WKF）プレミアリーグトルコ・イスタンブール大会： ・男子個人形：優勝（喜友名諒）・男子団体形：優勝（喜友名諒、金城新、上村拓也） 第 2 回東アジアシニア空手道選手権大会（男子個人形）：優勝（喜友名諒） 第 21 回世界空手道選手権大会（男子個人形）：3 位（喜友名諒） 第 40 回全日本選手権大会（男子個人形）：優勝（喜友名諒） 第 56 回全日本学生空手道選手権大会（男子個人形）：優勝（喜友名諒）ベスト 8（上村拓也） 第 56 回全日本学生空手道選手権大会（男子団体形）：準優勝、男子団体組手（ベスト 16）
12	剣道部	第 1 回石原杯剣道選手権大会：優勝（宮平一翔）、準優勝（越間雄飛）、4 位（新崎貢平） 第 23 回沖縄県学生剣道選手権大会：ベスト 8（高安航）
13	柔道部	第 61 回九州学生柔道優勝大会：団体出場
14	ゴルフ部	第 31 回九州学生ゴルフ選手権競技：42 位（渡真利健人）
15	なぎなた部	第 51 回全日本学生なぎなた選手権大会：出場

文化系サークルの主な実績

1	放送研究部	第29回NHK全国大学放送コンテスト:音声C M部門1位(上原いづみ)
2	吹奏楽部	第52回沖縄県吹奏楽コンクール:金賞(大学の部) 第37回沖縄県アンサンブルコンテスト:金賞(打楽器四重奏)、銀賞(サクソフォン四重奏) 第38回九州アンサンブルコンテスト:銀賞(大学の部)
3	コネクションプロデュース	全国大学生環境活動コンテスト:3位入賞 第4回防災・社会貢献ディベート大会:参加
4	琉球芸能文学研究会	兵庫・和歌山遠征:芸能鑑賞会公演、10周年記念公演『双葉踊り』
5	中東芸能クラブ	Y.S.SビーチPARTY参加

体育系クラブ活動実績(紹介) 〈団体名:空手道部〉

総合文化学部 社会文化学科 2年次
鹿児島第一高校出身
下村 世連(しもむら せれん)

私達、沖縄国際大学空手道部は、1年生4名、2年生1名、3年生2名の計7名で活動しています。練習は週3回を基本として行い、全国制覇を目標に頑張っています。

昨年、空手道部の主な戦績は、九州学生空手道選手権大会団体形優勝、団体組手3位。全日本学生空手道選手権大会においても団体形準優勝という成績を残しました。

そして、世界大会に出場した先輩方が、世界空手道連盟(WKF)プレミアリーグのトルコ・イスタンブール大会で団体形優勝、個人形優勝という快挙を成し遂げました。また、世界学生空手道選手権大会でも、個人形で3位という成績を残しました。

このように日本にとどまらず、世界を舞台に活躍している先輩方に一歩でも近づけるよう、まずは全日本学生空手道選手権での優勝を目指して日々鍛錬しています。



文化系クラブ活動実績(紹介) 〈団体名:コネクションプロデュース〉

経済学部 地域環境政策学科 4年次
首里東高校出身
西平 奨矢(にしひら しょうや)

★コネクションプロデュース★ 理念は「地域愛=環境保全」!

私たちコネクションプロデュースは「地域愛=環境保全」を理念に活動しています。今まであった環境サークルと違い、環境分野だけで活動するのではなく、多種多様な活動を行っている団体です。例えば、地域の町おこしの一環でこれまでに「那覇の日イベント」「1万人エイサー祭り」「首里城祭」「学童保育」にボランティア参加するなど多岐に渡って活動しています。一見して環境とはなんの関係もない活動に思えるかもしれませんが、これらの活動は地域愛が生まれ、地域社会の担い手であるという意識が芽生えるきっかけにもなります。自分の街をみんなが好きになることが、長い目で見たときに将来の環境を守ることに確実につながるということをコンセプトに私たちは日々活動しています。設立1年目にして、第10回全国大学生環境活動コンテストで紹介した大学祭でのゴミ有料化の取組みは日本初の試みであり全国3位入賞という結果を残すことができました。今後も精力的に活動していきますので、応援よろしくお願いいたします。



卒業生メッセージ



総合文化学部 人間福祉学科卒業
読谷高校出身
宮城 円 (みやぎ まどか)

「学ぶこと」にこだわり続けた4年間

私の大学生活の4年間は「勉強」の一言に尽きます。家族、奨学金制度等の支援があって進学ができた私にとって、大学でなにを身につけることができるのかは大きな意味をもっていました。大学では専門的知識を身につけたいと思い、講義で学ぶこと一つ一つを突き詰めて理解することにこだわり続けました。自分が納得のいくまで学んだことに対し、特待奨学生として評価していただいたことは大きな励みとなりました。

この4年間の学びは、私の学びへのこだわり以上に、一緒に学んだ仲間や先輩、後輩の存在と先生方の熱心な指導があったからこそ得ることができたのだと感じています。



経済学部 経済学科卒業
名護高校出身
平 和可子 (たいら わかこ)

～挑戦すること～

私の大学生活を一言で言うと、「挑戦」の4年間でした。大学生活で目標にしていたことは、「やりたいことには進んで挑戦し楽しむこと」です。

名護市出身の私は、宜野湾市で一人暮らしをしながらアルバイト、教職課程、資格取得などに取り組んできました。すべてを両立するために、やると決めたことには全力で向き合い、楽しみを見つけながら取り組んできました。その中で、きつと感じたことも多々ありましたが、目標を持ち続けたことと、仲間や先生方、家族の支えがあり乗り越えてきました。

大学生活で頑張った結果、特待奨学生に選ばれて、両親への負担を減らすことができ、とても感謝しています。これからは社会人として、自分ができる最高の恩返しをしていきたいです。

沖縄国際大学体育会 収支決算報告

■ 平成23年度決算書 (単位:円)
自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	14,976,000	事業費	15,391,555
寄付金	0	登録費及び参加料	0
雑収入	1,208	運営費	557,370
前年度繰越金	1,696,005	予備費	0
		次年度繰越金	724,288
合計	16,673,213	合計	16,673,213

■ 平成24年度予算書 (単位:円)
自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	15,527,500	事業費	15,541,000
寄付金	1,000	登録費及び参加料	1,000
雑収入	1,000	運営費	552,000
前年度繰越金	724,288	予備費	159,788
合計	16,253,788	合計	16,253,788

沖縄国際大学体育会は、体育運動を通じて学生・教員及び職員の心身を練磨し人格の向上を図るとともに、スポーツマンシップを養成し、あわせて会員相互の親睦と本学の発展に寄与することを目的としています。

沖縄国際大学文化会 収支決算報告

■ 平成23年度決算書 (単位:円)
自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	11,997,000	事業費	8,617,580
寄付金	0	備品費	1,590,705
雑収入	2,844	運営費	349,454
前年度繰越金	11,448,425	予備費	0
		次年度繰越金	12,890,530
合計	23,448,269	合計	23,448,269

■ 平成24年度予算書 (単位:円)
自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	12,439,000	事業費	19,181,000
寄付金	1,000	備品費	3,700,000
雑収入	3,000	運営費	505,000
前年度繰越金	12,890,530	予備費	1,947,530
合計	25,333,530	合計	25,333,530

沖縄国際大学文化会は、文化活動を通じて学生及び職員の人格的陶冶を図り、文化活動を継承・創造する人材を育成し、文化活動による社会貢献の実践を促進すると同時に、会員相互の親睦と本学の発展に寄与することを目的としています。

平成24年度 就職状況

就職先を決めることは、皆さんの卒業後の人生を左右する大切な選択です。しかし就職活動は初めての経験、どんな風に進めていいのかわからない不安や迷いがあるのは当然です。キャリア支援課では、就職ガイダンスをはじめ、履歴書添削、模擬面接、各採用試験対策講座、就職内定者報告会など様々な就職行事を企画し、皆さんの就職活動をサポートしています。まずは、行動する事が第一です。悩んでないで、気軽にキャリア支援課に足を運んで下さい。

就職サポート

就職資料室の充実

県内外企業からの求人票、企業個別ファイル、就職情報誌、公務員関係試験要項、大学院学生募集要項、その他就職に関する諸資料を取り揃えています。企業研究に大いに活用してください！

『Live Campus 就職システム』による迅速な情報提供

就職システムでは就職情報、就職行事、企業セミナー日程等の検索が可能です。年間500件を超える求人や約3,000件の企業データがいつでも入手でき、各就職ナビへの接続も容易で会社説明会へのエントリーや最新の就職情報収集に活用されています。学校内外どこからでもアクセスでき、希望者には就職情報のメール配信も行っています。

企業説明会、公務員・教員採用試験制度説明会の開催

学内において、各企業の説明会、国家公務員、教員採用試験制度説明会を行っています。平成24年度は、企業説明会を56回、公務員・教員採用試験制度説明会を4回開催しました。

就職模擬試験、適性検査の実施

就職模擬試験、公務員採用試験、その他適性検査を行っています。平成25年度の主な予定は次のとおりです。

- ①SPI能力検査 ②就職模擬試験（一般教養）③国家公務員一般職採用模擬試験
- ④地方公務員採用模擬試験（行政職、警察官、消防官）⑤教員採用模擬試験

インターンシップ

夏期休業期間を利用して、企業や官公庁などでインターンシップを実施しています。平成24年度は、225名の学生が実習に参加し、就業意識形成や職業に対する理解を深める貴重な体験をしました。

就職活動体験記



DHL ジャパン株式会社 内定

総合文化学部 英米言語文化学科卒業
読谷高校出身
今里 健徒（いまざと けんと）

私は3年次12月の就職活動開幕とともに、重かった腰をもちあげ本格的に就職活動を始めました。

留学経験を機に、どうしても県外にて職を見つけ経験を積みたいと思っていたため、まず初めに12月の中旬、東京で開催された合同企業説明会に参加しました。そこで関東の学生との就職に対する意識の違いや、自身の実力の足りなさに気づき、就職活動に対する危機感を覚えました。その気持ちを沖縄に帰っても冷まらず、自分自身の背中を押す糧にし、大学のキャリア支援課を利用しながら就職試験勉強や履歴書、エントリーシート作成に力を入れました。

2月から東京に入り、試験や面接が重なり始める中で、最初の頃はどうしても現地の学生に対抗するため無理に自分を飾っていた事が多くありました。そのため自分らしさをアピールする事が出来ずに不採用通知が重なり、落ち込むこともありましたが、一緒に県外就職を目指す仲間がいつも励ましてくれた事や、素直に周囲の人々のアドバイスを受け止めることで、等身大で素直な自分を売り込むことができるようになり、それが評価され内定を得る事が出来たと思います。

就職活動は一筋縄ではいかなかったからこそ、多くのことを学習し、自分を客観的に見つめる機会があった事で、大切なことに気づくことが出来たと思います。就職活動で得た気持ちを大切に社会人としてもがんばっていきたいと思います。



沖縄日立ネットワークシステムズ株式会社 内定

産業情報学部 産業情報学科卒業
那覇商業高校出身
高橋 梓（たかはし あずさ）

私は元々IT業界に興味があり、最初はIT業界のどの職種で仕事をしたいかあやふやだったのですが、3年次の夏に参加したIT会社へのインターンシップをきっかけに、IT業界でやりたい職種、携わりたい分野について考えるようになりました。

3年の秋頃から、学内学外問わず合同企業説明会やセミナーに参加するようになり、業界を絞りながらも、様々な業界で働く方のそれぞれの「仕事へのやりがいや楽しさ」を聞いて就活への刺激を受けていました。

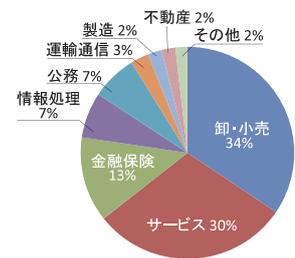
就活の途中、研究課題の発表があり課題中心の生活になっていたので、本格的に就活対策を始めたのは1月半ばでした。就活の遅れを取り戻すために、春休みはキャリア支援課で就活対策を何度も行い、土台をしっかりと固めることに取り組んでいました。

また就活を行っていて、私自身の就活のやり方に不安や疑問を感じた時は、友人や家族によく相談していました。その時、母に言われた言葉で印象に残っているのが「仕事をするのは自分自身。だからあなたが就きたい仕事についてほしい。」という言葉です。その言葉を聞いて、自信を持って就活をすることができ、志望していた企業から内定をいただくことができました。

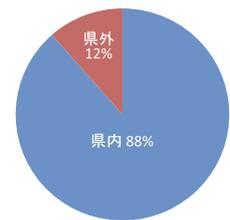
就活は辛いことや不安なことが沢山ありますが、友人や教授、キャリア支援課職員の方々、家族の支えがあったから、最後まで諦めず自分を信じて頑張ることができました。

そして就活後、友人との会話によく出るのが「就活は人それぞれのやり方がある」ということです。だからこそ自分の気持ちや意思を大切に、就活に臨み、向き合ってください。

平成24年度 業種別就職内定状況



平成24年度 県内外別内定状況



平成25年度 就職関連行事予定

4月	就職ガイダンス (就職マナー、面接について) 地方公務員、教員採用模擬試験
5月	学内合同企業セミナー
6月	学内合同企業セミナー インターンシップ事前ガイダンス
7月	学内合同企業セミナー
8~9月	SPI対策講座
10月	インターンシップ(企業実習) 就職ガイダンス 就職 Web 登録
11月	SPI対策講座 インターンシップ報告会 SPI能力模擬検査
12月	就職模擬試験(一般教養) 就職内定者報告会 OB・OG就職研究会
1月	学内合同企業セミナー
2月	4年次末内定者就職相談会 国家公務員業種別説明会

平成25年度 各種資格試験対策講座等スケジュール

No	講座名	説明会		募集期間	講座期間
		開催日	時間(予定)		
1	日商簿記検定 3級対策講座	4/8 (月)	16:20	4/8~4/15	4/19~6/4
		7/12 (金)	13:30	7/12~7/26	9/20~11/8
		11/29 (金)	13:30	11/29~12/13	1/7~2/14
2	国内旅行業務取扱管理者試験対策講座	4/12 (金)	13:30	4/12~4/26	5/8~8/28
3	色彩検定 2級対策講座	4/12 (金)	13:30	4/12~4/26	5/20~6/13
		7/12 (金)	13:30	7/12~7/26	9/12~10/31
4	秘書技能検定 2級・準1級対策講座	4/12 (金)	14:40	4/12~4/26	2級対策: 5/17~6/14 準1級対策: 10/11~11/1
		7/12 (金)	14:40	7/12~7/26	2級対策: 9/6~10/4 準1級対策: 10/11~11/1
	秘書技能検定準1級対策講座	7/12 (金)	14:40	7/12~7/26	準1級面接対策: 1/7・10
5	話しことば検定 2級・3級対策講座	4/19 (金)	13:30	4/19~5/9	5/16~7/11
		9/27 (金)	13:30	9/27~10/10	10/17~12/12
6	行政書士試験対策講座	4/19 (金)	13:30	4/19~5/10	5/20~10/31
7	宅地建物取引主任者試験対策講座	4/19 (金)	14:40	4/19~5/10	5/21~10/11
8	ブライダルプランナー検定 2級対策講座	4/26 (金)	13:30	4/26~5/10	6/3~8/26
		7/19 (金)	13:30	7/19~8/2	9/9~12/16
9	日商簿記検定 2級対策講座	5/10 (金)	13:30	5/10~5/24	6/10~10/28
		10/4 (金)	13:30	10/4~10/18	11/5~2/22
10	ITパスポート試験対策講座	5/17 (金)	13:30	5/17~5/31	6/21~10/18
11	word 文書処理技能認定試験 3級対策講座	7/5 (金)	13:30	7/5~7/19	8/6~8/27
		1/17 (金)	13:30	1/17~1/31	2/17~3/10
12	EXCEL 表計算処理技能認定試験 3級対策講座	7/5 (金)	13:30	7/5~7/19	9/3~9/17
		1/17 (金)	13:30	1/17~1/31	2/14~3/11
13	速読講座	6/28 (金)	13:30	6/28~7/12	8/19~8/30
		1/17 (金)	13:30	1/17~1/31	2/17~3/4
14	ファイリング・デザイン検定 2級・3級対策講座	6/28 (金)	13:30	6/28~7/12	8/6~8/8
15	ファイナンシャル・プランニング (FP) 技能士 3級対策講座	6/28 (金)	13:30	6/28~7/12	8/2~8/30
		1/24 (金)	13:30	1/24~2/7	H26.3/4~3/31
16	医療事務・医療事務コンピュータ対策講座	7/5 (金)	13:30	7/5~7/19	8/6~9/10 (医療事務講座) 9/17~20 (医療事務コンピュータ講座)
		1/10 (金)	13:30	1/10~1/24	2/17~3/22 (医療事務講座) 2/25~28 (医療事務コンピュータ講座)
		7/5 (金)	14:40	7/5~7/19	8/23~9/19
17	介護ヘルパー 初任者研修対策講座	1/10 (金)	14:40	1/10~1/24	2/17~3/12
		7/5 (金)	14:40	7/5~7/19	8/8~8/22
18	介護事務講座	1/10 (金)	14:40	1/10~1/24	3/13~3/27
		7/19 (金)	14:40	7/19~8/2	10/7~11/7
19	福祉住環境コーディネーター 2級対策講座	7/19 (金)	14:40	7/19~8/2	10/11~12/3
20	ビジネス実務法務検定 3級講座	7/19 (金)	13:30	7/19~8/2	10/11~12/3
21	公務員試験 (H26 年度向け) 対策講座	9/27 (金)	14:40	9/27~10/9	10/15~H26.6/14
22	社会保険労務士試験対策講座	11/1 (金)	13:30	11/1~11/13	12/3~H26.8/15
検定実施のみ	販売士 3級検定試験	試験: 7/13 (申込: 5/27~6/19)、試験: 2/19 (申込: 12/19~1/24)			
	販売士 2級検定試験	試験: 10/2 (申込: 8/16~9/6)			
	ビジネス能力検定 (B 検) 2・3 級	試験: 7/7 (申込: 4/8~5/15)、試験: 12/1 (申込: 9/2~10 月中旬)			
	法学検定試験 3級・4 級	試験: 11/24 (申込: 9/17~10/10)			
	秘書技能検定試験 2級・3 級	試験: 2/9 (申込: 12/3~1/9)			

※やむを得ない事情により日程等を変更する場合があります。予めご了承下さい。

資格取得者



秘書検定準1級 学内講座受講者

産業情報学部 企業システム学科 3年次
知念高校出身
外間 愛莉
(ほかま あいり)

社会に出た時、自信を持って仕事をしたいと思い、秘書検定準1級の獲得を目指しました。秘書検定では接遇マナーや社内の人に対する言葉遣いなど、社会人として基本的な知識を身につけることが出来ます。

講座では、社会経験豊富な講師の方が実体験をふまえてお話をするため、「筆記試験のために知識を暗記する」のではなく、「実社会で必要な知識を身につけている」という姿勢で楽しく受講することが出来ました。

また、講座では面接試験対策もできます。講師の方に直接、立ち振る舞い・声の出し方・お辞儀の角度などを見てもらえるので、自分の悪いところを確実に改善して本番に臨む事が出来ました。就職活動の面接にも自信を持つことが出来ると感じています。

大学生活の4年間は短いですが、自分の興味のある事に、沢山挑戦できる大切な期間だと思います。資格取得もそうですが、これからも色々なことに挑戦して充実した大学生活にしていきたいと思っています。



日商簿記 2級 学内講座受講者

法学部 法律学科 3年次
泊高校出身
梶 尊也
(ごや たかや)

私は1年次のときに日商簿記3級を受験して、もっと上の資格に挑戦したいと思い、この講座を受講しました。

3級を受験から1年近く経っていましたが、3級の範囲を復習しながら2級の内容を勉強するので、内容を思い出しながら学習を進めることができました。問題集も充実しており、家や学校で復習するのに助かりました。また、模擬試験の回数も多く、本番前に自分の実力を把握することもできました。

講師の方の説明も非常にわかりやすく、一つ一つの項目に時間をかけて学習するため、自分のペースで勉強しやすかったです。講義の終わりには質問対応の時間を設けてくださり、疑問に思ったことはその日の内で解決しました。

この講座を受講して、本当によかったと思っています。

第9回 学内英語スピーチコンテスト



6月22日、「学内英語スピーチコンテスト」が開催され、多彩な内容で磨きあげた英語の表現力が競われました。審査の結果、Grand Prizeに上地真雄(英米言語文化学科3年次)、Second PrizeとAudience Prizeにフラデラ朝美(英米言語文化学科2年次)、Third Prizeに野里結(英米言語文化学科1年次)、Honorable Mentionに角野大(人間福祉学科4年次)が入賞しました。入賞者の皆さん、おめでとうございます。そして、応援して下さいました皆さん、ありがとうございます。今回のコンテストでまた会いましょう!

第13回 学内中国語スピーチコンテスト



11月2日、「学内中国語スピーチコンテスト」が行われました。中国語の学習に力を入れている学生13人がエントリーし、言語学習や、文化及び社会などのテーマで中国語による表現力を競い合いました。審査の結果、一位に東筋美紀さん(英米言語文化学科4年次)、二位に我那覇陽子さん(英米言語文化学科2年次)、三位に石川雄大さん(英米言語文化学科3年次)、特別賞に猿渡航河さん(社会文化学科2年次)、奨励賞に山城由美さん(地域行政学科3年次)が選ばれました。来年度は、みなさんもチャレンジしてみませんか?

外国語センター

2013年度主な行事

- International Plaza Lunchtime English
- 語学検定対策講座: TOEFL、TOEIC、英検(2級・準1級)、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語
- 語学検定試験の実施: TOEIC、英検、韓国語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語
- 学内スピーチコンテスト: 英語、中国語、韓国語、日本語、琉球語
- 夏期日本語学文化研修・展示会
- CALLワークショップ
- 語学合宿セミナー
- 短期留学生成果報告会・展示会
- CALL講習会(夏期・春期)
- 外国語ホームページ・コンテスト

海外語学・文化セミナー

実施予定大学

東海大学・韓南大学校・マッコリー大学・バンクーバーアイランド大学

海外語学・文化セミナーは、長期休暇(夏期・春期)中の約3~4週間を利用して、外国語研修や異文化体験・外国事情の理解等を主な目的として実施されます。これらのセミナーはいずれも正規の授業科目(共通科目・国際理解科目群)に含まれ、全学部の学生が履修できます。それぞれのセミナーに参加し、所定の要件・研修成果を満たした学生には4単位が認定されます。

募集時期

- ・夏期(韓南大学校・バンクーバーアイランド大学):5月下旬
- ・春期(東海大学・マッコリー大学):11月下旬

3週間の韓国生活

産業情報学部 産業情報学科卒業
美里高校出身

眞玉橋 涼子(まだんばし りょうこ)



私は3週間の海外語学・文化セミナーに参加して、これまでに以上に韓国を好きになることができました。午前は語学の授業、午後は文化体験というプログラムでした。授業の雰囲気はとても明るく、先生方とコミュニケーションを取ることで、新しい単語も自然と身につけることができました。また、毎回の単語テストや宿題で、努力した分自信が付き、街で店員さんと会話をしたときは、自分の語学が成長していることを実感しました。

文化体験では、テコンドーや民族遊び、マッコリ作りなどの体験を通して、韓国の歴史を深く知ることができました。また、1泊2日のホームステイでは、市場で買い物をしたり家庭料理を食べることで、韓国人のリアルな生活を直に感じることができました。

韓国での生活は、3週間が一瞬に感じるほど充実していて、サポートしてくれた韓南大学の先生方、学生、他府県から参加していた学生との交流で、多くの仲間を得ることもできました。そこに行くからこそ感じられるものがあり、視野を広げることができると思います。皆さんも是非参加してみてください。

国外協定校派遣留学(1年間)

国外協定校派遣留学制度は、休学することなく、国外協定校への交換留学生として1年間派遣する制度です。それぞれの大学で履修した科目の単位については、所定の要件を満たした場合、単位互換に関する規定を適用し、本学の修得単位として認定することができます。

派遣先一覧

- ・東海大学(台湾)・韓南大学校(韓国)・澳門大学(中国)
- ・レンヌ第2大学(フランス)・南ユタ大学(アメリカ)

募集受付・説明会・実施期間等の詳細については、国際交流センター窓口へお問い合わせ下さい。

魅力たっぷりのマカオ留学

総合文化学部 英米言語文化学科 4年次
那覇西高校出身

東筋 美紀(あがりすじ みき)



「留学」。他言語や異文化などに興味がある方なら、誰しも一度は考えることではないでしょうか。私もその一人で、在学中、沖国大の交換留学を通して、マカオ大学へ留学することができました。中国圏に属しながらも、マカオ大学の講義はほぼ全てが(言語専攻除く)英語で行われていました。一方で、街では中国語(広東語)が飛び交っており、ポルトガルの植民地だったことから、西洋風の建造物も数多く残っていて、まさにアジアと西洋の素敵な出会いの場だったと思います。それは私自身、マカオ大学で、たくさんの西洋人留学生と出会うことができたからです。また先生方の出身国も様々で、私の先生方はアメリカ人や、中国人、さらにはポルトガル人だったことから、色々な英語を聞くことができました。それは、これから国際社会に出たい私にとって、このうえにない学習環境だったと思います。また同時に中国語にも大変興味があった私は、中国人の友人をたくさん作ることができました。気付けば、期待していた以上に、とても有意義に過ごしている自分がいました。それも、私を支えてくれた家族、先生方、国際交流センターの皆さん、友人のお陰であることは間違いありません。魅力あふれるマカオで、留学できたことを人生の貴重な財産とし、国際社会に羽ばたいて行きたいです。

国内留学

松山大学 法学部法学科へ派遣



松山大学での城間さん(右)

法学部 法律学科4年次
具志川商業高校出身
城間 博美
(しろま ひろみ)

私は愛媛県の松山大学に1年間留学しました。松山大学では、法律科目以外にも簿記や企業法務を履修する事ができ、とても勉強になりました。また、松山大学大学祭である「熱田津祭」では、愛媛らしくみかんご飯が模擬店で売られているなど、沖国大祭との違いを楽しむ事ができました。

愛媛にはみかん以外にも、道後温泉や文学の街として俳句大会など、実際に行ってみて初めて知った事がたくさんありました。この制度を利用してきて良かったと実感しています。

学報 第100号記念特別企画 バックナンバーで振り返る学報の歴史

学報は、今号をもって第100号を発行することになります。1973(昭和48)年に発行された学報創刊号で安里源秀初代理事長・学長は、「学報の発行は学内で久しく待ち望まれていたことであります。此度その創刊を見ることは喜ばしいことです。」と発刊の喜びを述べ、学報の役割についても触れています。

担当する部署も企画課から1992(平成4)年に新設された広報課への業務が移管され、より一層充実した内容へと期待されました。組織改編により2009(平成21)年からは広報企画課が担当しています。

第100号発行を機に、これまで学報の編集に携わった方に、印象に残る記事や編集の思い出、提言等を寄せてもらいました。

※学報が発行される以前は、広報委員会の編集により「沖縄国際大学ニュース」第1号が手書きで発行された。その後「大学ニュース」は、第2号(同年6月27日)、第3号(同年7月18日)が発行された。

1973(昭和48)年8月
学報第1号 企画課より発行。



1974(昭和49)年9月
◆大学竣工祝賀特集号
◆大学施設紹介
(カラー写真が初めて登場)

※1972(昭和49)年から1979(昭和54)年までに、「号外」が11回発行された。

1975(昭和50)年11月
学報第13号 表紙が初のカラー印刷に



1980(昭和55)年10月
◆7号館竣工
1981(昭和56)年1月
◆本学校歌作曲なる



1982(昭和57)年1月
学報第25号 本学創立10周年を迎える。

1983(昭和58)年1月
◆校門に鉛版を本学校友会から寄贈 / 第6期卒業生の記念事業として正門に銘板を寄贈
1985(昭和60)年3月
◆『沖縄国際大学十年史』発行



1992(平成4)年1月
学報第45号 本学創立20周年を迎える。広報課新設により、広報課より発行。縦書き割付を横書きに変更。

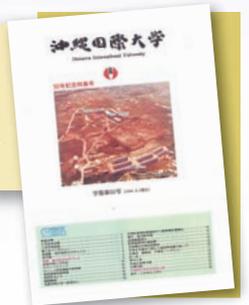
1993(平成5)年1月
◆5号館竣工式典・祝賀会を盛大に挙げる
◆特集 大学改革を考える

1993(平成5)年4月
学報第48号 全ページカラー紙面になる。
今号から、卒業生から後輩へのメッセージコーナー『あじまー』がスタートした



1994(平成6)年1月
◆韓国・韓南大学校から初めて事務研修職員受け入れ

1994(平成6)年4月
学報第50号 表紙のレイアウト変更。用紙サイズがB5からA4に変更。
『あじまー』のコーナーで初のOB対談を実施。



1996(平成8)年12月
◆短大部廃止に伴う学部収容定員増認可
1998(平成10年)10月
◆新図書館開館



2002(平成14)年1月
学報第73号 本学創立30周年を迎える。

2003(平成15)年4月
◆新講堂兼体育館竣工
2006(平成18)年11月
◆新本館竣工
2009(平成21)年4月
◆事務組織改組により広報企画課へ名称変更



2012(平成24)年4月
学報第98号 本学創立40周年を迎える。

2013(平成25)年4月
◆学報第100号発行

事務局長(元企画課係員) 第 27号～第 36号
屋嘉部 勉 (やかぶ つとむ) (在任期間:昭和 57年～昭和 62年)

1. 印象に残っている記事

- ① 学報第27～36号 「表紙及び沖国大祭写真」
 写真の撮影と選定を担当したので印象に残っている。
- ② 学報第33号 「沖繩国際大学十年史を出版」
 創立10周年に出版する予定であった記念誌は、諸事情により出版が危ぶまれた時期を経て、4年遅れでようやく出版することが出来た。難航を極めた記念誌が出版された喜びと安堵感が伝わる記事として印象に残る。

2. 学報作成における思い出、エピソード、提言等

30数年前、企画課在任中に上江洲繁課長(当時)の下で学報編集に携わる機会を得た。誌面構成や割付、校正等編集のノウハウを学んだことが、その後の大学業務を遂行していく上で大きな力になったと思っている。創刊号において安里源秀初代学長は、学報の使命を述べておられるが、IT技術の伸展等、諸環境の変化の中で、学報の果たしてきた役割を振り返りながら、新時代における学報の在り方に思いを巡らせる。



学生部学生課副参事(元企画課広報係長) 第 43号～第 48号
門口 政秀 (もんぐち まさひで) (在任期間:平成 2年～平成 5年)

1. 印象に残っている記事

- ① 学報第48号「志願者数7,247人—平成5年度入学者選抜試験—」
- ② 学報第44号
 新任教職員紹介に、顔写真と抱負を加えた。現在のようにデジカメや携帯電話が普及しているわけではなく、上司から「発行に間に合うのか」と言われ不安になり、印刷ギリギリまで顔写真収集と抱負を語ってもらうために奔走したのを思い出す。

2. 学報作成における思い出、エピソード、提言等

平成3年から平成6年にかけて、志願者数がピークを迎え、コンベンションセンター、宜野湾市立体育館、西原町立体育館、本学体育館を入学試験会場として使用した。写真を撮るため駆けずり回ったが、コンベンションセンターの写真が活用できなかったのが残念である。

写真撮影の際に気をつけることは、撮影の目的を明確に意識することである、また、撮影後はすぐにメモ、記録を付して整理することが重要である。



元広報課長 第 49号～第 59号
山根 光正 (やまね みつまさ) (在任期間:平成 3年～平成 9年)

1. 印象に残っている記事

- ① 第47号の「特集 大学改革を考える」
 大学改革検討委員会に原稿を依頼し、本学の新たな特色を明らかにした。
- ② 第50号の「学報でみる20年のトピックス」
 本学創立時から20年間のあんな記事、こんな話題を学報から拾った。

2. 学報作成における思い出、エピソード、提言等

広報課に勤務したのは平成3年7月～平成9年3月までで、学報第45～59号までを担当しました。当時の学長は嘉数武松先生と平敷令治先生で、学報が完成すると真っ先にお届けしました。嘉数学長は「上等です」とニコニコされていました。平敷学長からは後日「良かったね」とお褒めの電話を頂きました。電話の無い時などは、次号はもっと素晴らしいものを作ろうと広報課の職員で話し合ったものです。学報が益々充実することを期待しています。



センター統括事務部長(元広報課長) 第50号～第64号
普久原 朝保(ふくはら ともやす) (在任期間:平成5年～平成11年)

1. 印象に残っている記事

- ① 学報 49号
初めて編集に関わった学報なので印象深い
- ② 学報 50号
記念号として取り組んだので印象深い

2. 学報作成における思い出、エピソード、提言等

学報は、学外へ本学の活動状況を広くアピールするという役割がありますが、もう一つ、学内での情報共有という役割もあります。本学の教員、職員、学生が沖国大の魅力、沖国大の目指す方向性を共有することによって、まとまりのあるイキイキとした明るい大学になると思います。今後の学報にますます期待しています。



沖縄法政研究所 研究支援助手(元広報課非常勤職員) 第47号～第82号
石川 朋子(いしかわ ともこ) (在任期間:平成5年～平成16年)

1. 印象に残っている記事

- ① 学報第47号「講演 新しい大学像と大学改革—大学改革と自己点検・自己評価—」
初めて大学改革について取材し、講演要旨を緊張のなか、まとめた記事で印象に残っています。
- ② 学報第48号「あじまー」
卒業生と在学生をつなぐコーナーとして「あじまー」を設けました。取材で卒業生の活躍や生きざまに圧倒され、原稿が進まなかったことを思い出します。

2. 学報作成における思い出、エピソード、提言等

学報47号発行当時、学内では「大学改革」が話題でしたが、学報で取り上げることはありませんでした。課内では「大学改革」を特集することに異論もありましたが、課長(山根光正)の主導の下、編集作業が進められました。これまでの学報とは異なった役割をもつきっかけになったと思います。また、学報第47号は、依頼原稿中心から取材し記事にするスタイルへと、広報課主体の誌面づくりへ移行していったと思います。今後も学報の役割を再認識し、情報を取捨選択した誌面づくりを期待します。



広報企画課長 第65号～第74号/第84号～第90号
仲田 哲二(なかだ てつじ) (在任期間:平成11年～平成14年 /平成17年～平成20年)

1. 印象に残っている記事

- ① 学報第65号「国内留学特集」国内留学の魅力を語る学生身近な体験が聞けたことが印象に残っています。
- ② 学報第88号「学生部だより」
前回まで別冊だった学報に取り込んで編集したこと

2. 学報作成における思い出、エピソード、提言等

久しぶりに学報を見ると写真の一枚一枚にその当時の記憶が甦って来ます。初めての学報第65号では、国内留学特集、学報第66号サークル活動学生、学報第72号奨学金受給学生の座談会、学報第73号での創立30周年、あじまー記事では、卒業生の取材に本島各地に赴きました。思い起こせば貴重な思い出です。本学の歴史を感じる仕事ができたと誇りに思います。



経営政策室 参事(元広報課長) 第 80号～第 87号
大城 健太郎 (おおしろ けんたろう) (在任期間:平成 16年～平成 18年)

1. 印象に残っている記事

- ① 学報第 81号
特集・米軍ヘリコプター墜落事件報告に携わったこと



2. 学報作成における思い出、エピソード、提言等

2004年米軍ヘリが本館に墜落した。本館墜落現場周辺は米軍が完全支配し、一瞬のうちに大学は制圧され、その後被害者でありながら、自らの力で米軍・日本政府・マスコミ等と対峙し対応に追われた。

墜落30分後には米軍ヘリ墜落事件対策本部を設置。これは教職員一人一人に学生のため大学を守るという意識があり、行動に起こした結果、危機を乗り越えられた。また当時、卒業生や県民の支援は対策本部員を鼓舞させ、冷静に事に当たることができた。感謝したい。

入試センター 係長(元広報企画課係長) 第 91号～第 96号
上間 勝彦 (うま かつひこ) (在任期間:平成 20年～平成 23年)

1. 印象に残っている記事

- ① 学報第 91号
初めて編集を手掛けた学報なので印象に残っている。
- ② 学報第 94号「あじま～34 宮平貴子」
世界的な映画監督・プロデューサーとして活躍している本学卒業生のインタビューを行った。



2. 学報作成における思い出、エピソード、提言等

4月の入学式式典が最初の撮影業務で多くの人前に出た緊張感を思い出します。

第94号の「あじま」で取材しました、本学卒業生で映画監督の宮平貴子さんは、気さくな方で撮影中のエピソードなどもお話しいただき印象に残っています。広報業務、取材を通じて出会った多くの皆様にあらためてお礼を申し上げます。

広報企画課 主任 第 97号～
高江 秀樹 (たかえす ひでき) (広報在任期間:平成 24年～)

記念すべき学報第100号の編集に携わることができ、大変光栄に思います。

今回この特別企画を制作するにあたり、これまで学報制作に関わった多くの先輩方より、当時の思い出話や苦労話をお聞きすることができました。口々に話されたのは、「何年経とうと、自分の手掛けた学報のことは決して忘れられない」ということです。

広報企画課に配属されてまだわずか2年弱ではありますが、教職員をはじめ、多くの在学学生、卒業生の皆さまとの出会い、貴重なお話をお聞きすることができました。学報を制作するたびに、人とのつながりもまた増えていきます。それが、自分の手掛けた学報のことはいつまでも忘れられない理由の一つなのかも知れません。

インターネットの普及により、情報入手の手段の多様化が進んでいますが、今後とも気軽に手軽に読める学報の発行を通じて、一人でも多くの皆さまに本学の魅力を紹介していきたいと考えています。今後とも引き続き情報のご提供とご支援のほどよろしくお願いいたします。



第41回 卒業式

第15回 大学院修了式



第41回卒業式並びに第15回大学院修了式が3月22日午後1時より、本学講堂兼体育館で挙行政され、学部生1,211名、大学院生18名の計1,229名がそれぞれの目標や夢に向かって巣立っていきました。

大城保学長は式辞の中で「我々一人一人は、世の中の多くの人々との「きずな(継=絆)」を編み合いながら、その人生を全うしていくものであります。しかしながら、現代日本の社会は、世の中でつながりを創る「絆」の多くが切れてしまった「無縁化社会」の状況にあるように思います。社会は、構成員全員の無数の絆によって編み上げられたネットワーク(継)としての「有縁社会」でなければなりません。有縁社会において自立するとは、自分の人生を支えられるだけの継を世の中に作り上げていること、



答辞を述べる平良美紀さん(首里高校出身)

と同時に、他の人の人生を支える絆に自分になっていることであると考えます。そのような継を編み上げるには「対話と共感の積み重ね」が何よりも大事なことであります。

人類は誕生以来、知恵と工夫でもって、多くの知識を社会に蓄積し受け継ぎできました。その膨大な知識や技術を、社会の一人一人が、その関心と努力を持って、分担しあって受け継ぎ、同時に受け継いだものを統合していくことが不可欠であります。皆さんは、本学で社会科学や人文科学の知識を受け継いだ人財として、誇りと勇気を持って、そして社会の一人一人が人財であり教師であるという「衆人皆師」の精神と感謝の気持ちを持って、対話と共感を積み重ねて自立できる継を編み上げ、社会の荒波をしっかりと乗り越え、社会の発展に貢献していただきたい」と述べ卒業生・修了生を激励しました。

卒業生を代表して産業情報学部産業情報学科の平良美紀さんは「振り返れば4年前、これからどのような大学生活が待っているのか、期待と不安を抱いて入学したことを昨日のことに思い出します。学生生活では、多くの人たちと出会い、かけがえのない多くの経験と知識を得ることができ、一回り大きな人間

として成長することができました。沖縄生として過ごした日々は、二度と戻ることのできない貴重な時間となりました。

本日をもって、私たちは沢山の思い出を胸に、沖縄国際大学を卒業します。私たちがこれから踏み出す世界では、様々な困難や変革が待ち構え、日々難しい判断や選択を迫られることでしょう。どのような道を進んでも、楽しいこともあれば、辛いことに直面することもあるはずです。しかし、そのような時は大学生活で培ったことを支えとし、責任を持って自分で選んだ道をまっすぐに進んで行こうと思います。まだまだ未熟な私たちです。卒業後もこれまで同様、皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

最後になりますが、未熟な私たちにいつも適切な助言を与えて下さった諸先生方、また様々な場面で私たちを支えて下さった職員の皆様、改めてお礼申し上げますとともに、大学卒業を迎えた今日まで私たちの成長を温かく見守り続けてくれた家族に感謝します。ありがとうございました。皆さま方のさらなるご活躍、沖縄国際大学のより一層の発展を心よりお祈り申し上げます」と答辞を述べました。

学生表彰

学長賞

総合文化学部
英米言語文化学科
喜友名 諒
(きゆな りょう)



国内外の空手道大会において優秀な成績を収めた。将来、沖縄および日本空手界を担う人物として今後の活躍が期待される。



主な戦績

- ・世界空手道連盟プレミアリーグKARATE2012トルコ・イスタンブール大会(個人形・団体優勝)
- ・第21回世界空手道選手権大会(個人形3位)・第8回FISU世界学生空手道選手権大会(個人形準優勝)
- ・第40回全日本空手道選手権大会(個人形優勝)・第56回全日本学生空手道選手権大会(個人形優勝)

卒業生メッセージ



法学部
地域行政学科卒業
久米島高校出身
喜久里 航平
(きくざと こうへい)

私が皆さんに伝えたいことが2つあります。

1つ目は、「いろいろなことにチャレンジした方が良い」と言うことです。私は、教員免許取得をめざし教職課程に挑戦しました。また、課外活動においても書道サークルに所属し、学外においても「お笑い芸人」として活動を開始しました。

何かを新しく始めるということは、勇気のいることですが、一歩踏み込んでしまえば、その新しい環境が自分の可能性を広げてくれます。そして、新しい仲間との出会いが刺激となり、自分を成長させてくれます。私自身、学業、サークル、お笑いと三足のわらじを両立させることで、様々な経験を得ることができ人間性が豊になったのではないかと感じています。自分と言うものなんです。私ほど人として奥行きのある大学生はそうはいないのではないのでしょうか？

2つ目は、図書館では「静かに」しましょうということですよ！



産業情報学部
企業システム学科卒業
北中城高校出身
赤嶺 由莉
(あかみね ゆり)

私の学生生活はとても楽しく、恵まれたものでした。大学での出会いは私へ様々な影響を与えてくれました。というのも、高校とは違って十人十色、たくさんの個性的な友達に会い、いろいろな考え方や発想が生まれたからです。

学生の間は、将来について軸がぶれることもあるでしょう。でも若いうちは不安もあるし当たり前。そこでどう軌道修正するかが大切です。自分がやりたいことを堂々と好きでいればきっと大丈夫ですよ！また、好きなことに対しては、自然と努力もできます。

これから4年間、様々な出会いと経験があなたを待っています。

ひとつひとつの出会いに感謝して、あなたらしく楽しい素敵な毎日してください！



地域文化研究科
南島文化専攻修了
普天間高校出身
古堅 裕之
(ふるけん ひろゆき)

私は、大学院で共に学び合う「仲間」と出会うことが出来ました。

学部生時代にゼミの先生に勧められて入学を決意した大学院、私にとって、院での学生生活は学部の時にやり残したことをするリベンジの日々でもありました。

学会に参加すること、勉強会を行うこと、沖国大のキャンパスを拠点にして活動し、私の研究分野である沖縄の文学と向き合う日々を過ごせました。特に、勉強会からは大きな刺激を受けました。先生方の勉強会にも参加させて頂きましたし、院生同士でも行いました。勉強会を通して、主体的に学ぶ姿勢を獲得できたと思います。

修士論文を書き上げた今、仲間と切磋琢磨した日々を思い出しています。

大学院は、多くの人に助けってもらいながら、学問を修めることが出来る場所です。二年間という短い期間ではありますが、是非チャレンジしてみてください。

2012(平成24)年度 卒業生数・修了生数

学部卒業生数

学部	学科	男	女	合計
法学部	法律学科	65	52	117
	地域行政学科	74	31	105
経済学部	経済学科	99	21	120
	地域環境政策学科	87	29	116
産業情報学部	企業システム学科	61	69	130
	産業情報学科	71	47	118
総合文化学部	日本文化学科	41	64	105
	英米言語文化学科	39	105	144
	社会文化学科	38	58	96
	人間福祉学科	52	108	160
合計		627	584	1211

9月卒業生数

男	女	合計
2	1	3
1	2	3
4	0	4
2	0	2
1	1	2
5	0	5
1	2	3
0	1	1
2	0	2
0	1	1
18	8	26

大学院修了生数

研究科名	専攻名	男	女	合計
地域文化研究科	南島文化専攻	1	3	4
	英米言語文化専攻	1	1	2
	人間福祉専攻	1	5	6
地域産業研究科	地域産業専攻	2	1	3
法学研究科	法律学専攻	3	0	3
合計		8	10	18

9月修了生数

男	女	合計
0	0	0
0	1	1
0	0	0
0	0	0
0	0	0
0	1	1

総合文化学部長賞

総合文化学部
英米言語文化学科
比屋根 渚
(ひやね なぎさ)



平成 25 年度沖縄県公立学校教員候補者選考試験(中学校外国語科)に現役で合格を果たした。学業においても模範的で人格的にも優れ、3年次には特待奨学生に選出された。

総合文化学部
人間福祉学科
宮城 円
(みやぎ まどか)



総合文化学部において修得した単位の評価が全て「優」という快挙を成し遂げた。その学問に対する真摯な姿勢は多くの学生の模範となるもので、在学中は特待奨学生に選出された。

校友会会長賞

総合文化学部
日本文化学科
上原 いづみ
(うえはら いづみ)



「第29回NHK全国大学放送コンテスト(音声CM部門)」にて、企画・シナリオ・監督・編集・演出を務めた作品「生から人へ」で見事第一位を受賞した。

後援会長賞

法学部
地域行政学科4年次
美来工科高校出身

金城 新 (きんじょう あらた)

総合文化学部
社会文化学科3年次
興南高校出身

上村拓也 (うえむら たくや)



右から金城君と上村君

平成24年度全日本空手道連盟男子団体形代表に選抜。また、世界空手道連盟KARATE1プレミアリーグ(イスタンブール・トルコ)に出場し、団体形優勝。

校友会会長賞

総合文化学部
日本文化学科2年次
真和志高校出身

伊波 希 (いは のぞみ)



平成24年度第8回おきなわ文学賞詩部門において『ありふれた日常』という作品で「二席」(沖縄県文化振興会理事長賞)を受賞。

第29回 NHK全国大学放送コンテスト 「音声CM部門」第一位

総合文化学部 日本文化学科卒業
那覇西高校出身

上原いづみ (うえはら いづみ)

上原さんは、音声CM部門にエントリーし、与えられた「生」という文字のテーマから、「生から人へ」というタイトルでCMを制作しました。大学の卒業式という設定で、幼稚園生から大学生まで、これまで「生」という文字が付いてきたが、明日からは社会人という「人」の文字が変わっていく。これまでは「人」になるために生きてきた。

これからは「人」として生きていく。それがまさに人生、ということを男女の会話の掛け合いの中で表現しました。このようなメッセージ性の高さが評価されて見事第一位を獲得しました。



上原さんは「最後の最後に賞が獲れて自信につながった。もともと朗読が好きなので、読み聞かせや朗読会を開いて日本全国をまわりたい」と今後の抱負を語りました。

学生インタビュー

総合文化学部 英米言語文化学科卒業
球陽高校出身

比屋根 渚 (ひやね なぎさ)



先生に憧れて英語教師に

小さな頃から先生が好きで、特に小学校5、6年の時の担任の先生に憧れ、教師になりたいと思うようになりました。その先生は人気のある先生で、とても優しく、怒るときは厳しいという先生でした。中学に進んで教科を教えたいという気持ちが強くなり、好きだった英語の教師を目指すようになりました。

なぜ現役合格できたのか

留学に行くことも考えていたのですが、募集人数が例年よりも多いと聞いて「今年しかない!」と思い、教員採用試験に集中することを決心。3年生の10月から、毎週土曜日7時30分から行われる教員採用試験対策講座を受講し、教職教養を中心に勉強をしました。

専門教科は点数を伸ばすのが難しいと聞いていたの

で、英語は1年生の頃から意識して勉強するようにし、また早めに過去問題集を買って、問題の傾向を把握するようにしていました。それでも大学の勉強が忙しく、本格的に勉強を始めたのは3年生になってからです。

二次試験は、対策講座を担当した玉城先生が論文試験や面接対策をしてくださり、模擬授業や英語面接の対策は、英語科教育法の担当である津波先生が、夏休み中に時間を割いて親身に指導してくださいました。

素直な気持ちで接することのできる教師に

教職課程との両立が難しいため途中で脱落していく人も多いのですが、対策講座はきつなくても最後まで受け続けて欲しいと思います。正直、私も現役で受かるとは思っていませんでしたが、今できることをやろうという気持ちでがんばっていました。

また私を応援してくれた家族や先生方、同じように教師を志す教職のメンバーにはとても感謝しています。まわりの人たちに支えられたからこそ最後まで頑張れたと思います。

4月からは国頭中学校に赴任が決まっており、常に素直な気持ちで子供たちと接していける教師になりたいと考えています。

平成 24 年度 臨床心理士資格試験に 4 名が合格

2月26日、平成24年度臨床心理士資格試験合格者が、大城保学長を訪問し合格の報告を行いました。臨床心理士とは、日本臨床心理士資格認定協会が認定している資格で、小・中・高校でのスクールカウンセラーや病院など様々な分野で活躍が求められている資格です。

本学からは、大学院地域文化研究科人間福祉専攻「臨床心理学領域」の修了生が受験し4名が合格しました。合格率は約60パーセントですが、本学では80パーセントの高い合格率となりました。平成23年度修了生は、全員合格の快挙です。



あいま〜36

※あいま〜：沖縄の方言で交差点の意。卒業生から後輩へのメッセージ

美術作家。クレパス画家として世界中で活躍しているア리카ワコウヘイ！さん



ア리카ワコウヘイ！
KO-HEY! ARIKAWA
atelier happy clover 528

法学部法学科（2001年度卒業）
那覇西高校出身

—プロフィール—

美術作家。クレパス画家。1978年福岡県北九州市生まれ、大阪と沖縄で育つ。家の事情で高校時代に沖縄に移住。幼少時代から野球一筋だったが人生の大きな壁にぶつかり、明日すら見えず、絶望の淵だった23歳の頃、突如、絵と色彩の魅力に目覚め、まったく未経験の絵の世界に飛び込むことを決意。県の職員をしながら1枚500円の路上の絵描きからスタートし、1年後には画家として独立。現在では富士山麓の山中湖にアトリエを構え、日本国内のみならず海外においても活躍中。

OFFICIAL WEBSITE

<http://www.happyclover528.com/>

●学生時代の様子

自分で言うのもなんですが、それなりに真面目に勉強する学生だったと思います。切磋琢磨できる友人にも出会い、教職課程も履修していました。教育実習の際に、教材として紙芝居を作ったのが好評で、他の高校からも授業の依頼があったほどです。

当時は絵を描くことにほとんど興味が無く、将来画家になるなんて想像もしていませんでした。その紙芝居は紛失してしまったのですが、今思えば初期の作品(?)として取っておけばよかったかもしれませんね。あとは、高校の野球のコーチやアルバイトに明け暮れていました。

●絵は世界共通の言葉の要らない芸術

現在は展覧会やサイン会などで日本中を飛び回っており、毎年国内50カ所ほどで展覧会を開催しています。今は沖縄を離れて、富士山の近くの山中湖村（山梨県）にアトリエを構えて活動しています。ここ数年は、海外での展覧会も増えてきて、月の半分は海外で過ごすということも、珍しくなくなってきました。

絵は世界共通の言葉が要らない芸術なので、国内外問わず展覧会で僕の絵を見て、誰かが笑顔になるのを見ると嬉しいです。また、ときには僕の絵を見て、涙を流しながら「心が癒されました」と言ってくださる方もいます。僕の絵が誰かの力になっている。画家になってよかったと思う瞬間です。

その代わり、絵を描くというのは、無から有を生み出す作業なので、新作を描くときには、毎回生みの苦しみを味わっています。作品たちは苦しんで生んだ子どものようなもので、ただの「絵」という以上の大切な存在です。僕が目指しているのは、世界一、家族で行きたい展覧会。そして、僕の夢は、世界中を展覧会で回ることです。

●大学で学んだことは必ず役に立つ

大学の4年間は、たった1200日ほどしかないもので、1日も無駄にすることなく、大いに学んで下さい。僕は法学部を卒業し、画家になりました。どの学部を選んだとしても、自分の可能性を自分で決めつけてしまわずに、色々なことに好奇心を持って日々を過ごして欲しいと思います。どんな道に進んでも、大学で学んだことは、いつか必ず役に立つ日が来ます。

それと、僕が卒業してから図書館と体育館が新しくなったので、内心、とても羨ましいです。

学内人事

退職 教職員紹介

(平成25年3月31日)

- ①勤務年数
- ②主な担当科目



教育職員
経済学部
経済学科 教授
嘉手川 繁三
(かてかわ しげみつ)

- ①26年(特任期間3年を含む)
- ②数学、統計学

26年間の冲国大の生活で、教養部の廃止と財政問題の騒動が最も印象に残っています。当時、財政が実質的破綻状態との専門の先生たちの言に反して、今日の冲国大があるのは、ひとえに教員、職員の奮闘の賜物でしょう。長い間、ありがとうございました。



教育職員
経済学部
地域環境政策学科 教授
野崎 四郎
(のざき しろう)

- ①21年
- ②地域経済学、マクロ経済学、産業連関論

21年間、時の流れは一瞬でした。しかし、沖繩の経済社会が大きく変貌し最初の教え子達が地域の中核人材として育っていくには十分な年月でした。皆さんの日頃からの厚情に心から感謝すると共に、更なるご発展を祈念いたしております。



教育職員
法学部
地域行政学科 教授
吉次 公介
(よしつぐ こうすけ)

- ①13年
- ②国際政治学、日本外交史

皆様にお力添えいただき、大変充実した日々を過ごすことができました。ご厚情に、心より御礼を申し上げます。本学の益々の発展をお祈り致します。



教育職員
総合文化学部
英米言語文化学科 准教授
柴崎 礼士郎
(しばさき れいじろう)

- ①8年
- ②基礎演習、専門演習、英語VII(TOEIC)

冲縄国際大学在職中に得た知的恩恵に対して、感謝を表すに相応しい言葉が見当りません。一層の研鑽をもって報いる努力を致します。頓首再拝。



事務職員
情報センター 主任
横川 貴子
(よこかわ たかこ)

- ①9年11ヶ月

教職員の皆様へのあたたかなご指導・ご協力に心から感謝申し上げます。冲縄国際大学での経験を糧にこれからも精進いたします。皆様の健康と大学の益々の発展をお祈りいたします。



事務職員
教務部学務課
福祉・ボランティア支援室
社会福祉実習助手
砂川 亜紀美
(すなかわ あきみ)

- ①3年

多くの活発な学生と出会い、教職員並びに関係者の皆様から多くの学びとご指導を賜りました。全てが宝物です。心より感謝申し上げます。本学の更なるご発展をお祈りいたします。

学内人事

採用 教職員紹介

(平成25年4月1日)

- ①最終学歴
- ②主な担当科目



教育職員
法学部
地域行政学科 講師
野添 文彬
(のぞえ ふみあき)

- ①一橋大学大学院法学研究科博士課程修了(法学)
- ②日本外交史、国際政治学、基礎演習、専門演習

日本外交史や国際政治学を担当します。日本や沖繩のあり方を国際関係や歴史といった広い視野の中で一緒に考えていきましょう。



教育職員
経済学部
経済学科 講師
金城 敬太
(きんじょう けいた)

- ①総合研究大学院大学複合科学研究科 博士(情報学)
- ②統計学、数学、経済統計、経済数学など

推論や意思決定、マーケティングなどを研究しています。本学および沖繩の発展に貢献できるように、教育・研究に励みたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



教育職員
経済学部
地域環境政策学科 講師
渡久地 朝央
(とぐち ともちか)

- ①北海道大学大学院博士課程修了(農学)
- ②地域経済学、環境経済学

地域経済学及び環境経済学を担当します。これまでの経験を活かし、沖繩の経済問題や環境問題に貢献できるように精進してまいります。



教育職員
産業情報学部
企業システム学科 准教授
木村 眞実
(きむら まみ)

- ①駒澤大学大学院商学研究科博士課程修了(商学)
- ②工業簿記、原価計算

皆さんの、簿記検定・資格試験への挑戦をサポートします。また、地域の方と連携した研究(資源循環、経営分析など)を行います。



教育職員
総合文化学部
英米言語文化学科 准教授
Kate O'Callaghan
(ケイト・オカラハン)

- ①南クイーンズランド大学大学院修了(教育学)
- ②観光英語・ビジネス英語など

冲縄国際大学での仕事を楽しみにしています。クラスの学生たちに鼓舞する学習体験を与え、共に一生懸命頑張りたいと思います。今後の色々なチャレンジも楽しみですし、冲縄国際大学の名前に提供出来る様努めたいと思います。

退職・併任等・昇任・配置換

■退職・教育職員：3月31日付

職名	氏名	勤続年数
経済学部経済学科教授	梅井 道生	37年
産業情報学部産業情報学科教授	富川 盛武	37年
総合文化学部英米言語文化学科教授	新垣 實	31年
総合文化学部英米言語文化学科教授	漆谷 克秀	32年

但し、4名とも特任教授として引き続き本学にて勤務

■退職・事務職員：3月31日付

職名	氏名	勤続年数
図書館図書課課長	垣花 聡	35年9ヶ月

但し、再任用職員として引き続き本学にて勤務

■退任：教育職員：3月31日付

役職名	氏名	職名
総合文化学部長	葛綿 正一	総合文化学部教授
地域文化研究科長	保良 昌徳	総合文化学部教授
法学研究科長	脇阪 明紀	法学部教授
冲縄法政研究所所長	小西 由浩	法学部教授
冲縄経済環境研究所副所長	友知 政樹	経済学部准教授

■併任等：教育職員：4月1日付

役職名	氏名	職名
総合文化学部長	保良 昌徳	総合文化学部教授
地域文化研究科長	稲福 みき子	総合文化学部教授
法学研究科長	小西 由浩	法学部教授
冲縄法政研究所所長	照屋 寛之	法学部教授
冲縄法政研究所副所長	黒柳 保則	法学部准教授
冲縄経済環境研究所所長	梅井 道生	経済学部教授
冲縄経済環境研究所副所長	名嘉座 元一	経済学部教授
国際交流センター所長	大城 朋子	総合文化学部教授

■昇任：教育職員：4月1日付

新職名	氏名	旧職名
法学部教授	比屋定 泰治	法学部准教授
産業情報学部教授	平良 直之	産業情報学部准教授
総合文化学部教授	山口 真也	総合文化学部准教授
総合文化学部教授	仁野 平智	総合文化学部准教授
産業情報学部准教授	田口 順等	産業情報学部講師
総合文化学部准教授	田場 裕規	総合文化学部講師
総合文化学部准教授	下地 賀代子	総合文化学部講師

NO.	日付	寄付者	備考
1	1月28日	松島 寛行	後援会
2	1月28日	普久原 朝泰	後援会
3	1月28日	仲村 清	後援会
4	1月28日	中村 幸雄	後援会
5	1月28日	根間 康雄	後援会
6	1月28日	稲嶺 京子	後援会
7	1月28日	喜友名 朝政	後援会
8	1月29日	赤嶺 豊子	
9	1月29日	赤嶺 光秀	
10	1月29日	運天 勝吉	
11	1月29日	大城 清	
12	1月29日	大城 恵子	
13	1月29日	大城 立	
14	1月29日	大城 盛雄	
15	1月29日	金城 雄	
16	1月29日	金城 徳一	
17	1月29日	宜保 兼行	
18	1月29日	座安 成助	
19	1月29日	島袋 幸雄	
20	1月29日	高良 盛浩	
21	1月29日	比嘉 勇	
22	1月29日	屋嘉部 勉	職員
23	1月29日	山里 洋	職員
24	1月29日	佐藤 敬明	職員
25	1月30日	仲田 哲二	職員
26	1月30日	山里 肇	職員
27	1月30日	上原 靖	職員
28	1月30日	宮国 克枝	職員
29	1月30日	岸本 博樹	職員
30	1月30日	呉屋 利枝子	職員
31	1月30日	幸地 良	職員
32	1月30日	上江洲 安理	職員
33	1月30日	大城 秀之信	職員
34	1月30日	喜世川 悠	職員
35	1月30日	比嘉 優太	職員
36	1月30日	美里 将太	職員
37	1月31日	田口 順等	教員
38	1月31日	玉那 覇 淳	職員
39	2月1日	西山 千絵	教員
40	2月4日	赤嶺 雅弘	
41	2月4日	赤嶺 雅俊	
42	2月4日	赤嶺 雅功	
43	2月4日	平安山 幸英	
44	2月4日	上江田 貞雄	
45	2月4日	大城 修	
46	2月4日	大城 満	
47	2月4日	具志 善次	
48	2月4日	大城 基	
49	2月4日	大城 温	
50	2月4日	赤嶺 政功	

NO.	日付	寄付者	備考
51	2月4日	阿波根 昌文	
52	2月4日	兼村 憲常	
53	2月4日	神山 正實	
54	2月4日	古謝 源有	
55	2月4日	島袋 朝夫	
56	2月4日	洲 鎌 徳光	
57	2月4日	玉城 恭広	
58	2月4日	西田 文昭	
59	2月4日	森田 和美	
60	2月4日	玉城 光秀	
61	2月5日	井口 忠	職員
62	2月11日	大城 建夫	教員
63	2月11日	砂川 徹夫	教員
64	2月11日	大城 朋子	教員
65	2月11日	兼本 敏	教員
66	2月11日	下地 賀代子	教員
67	2月11日	田場 裕規	教員
68	2月11日	西岡 敏	教員
69	2月11日	仁野平 智明	教員
70	2月11日	山口 真也	教員
71	2月11日	ピーター シンプソン	教員
72	2月11日	津波 聡	教員
73	2月11日	素民喜 琢磨	教員
74	2月11日	松田 節子	教員
75	2月11日	グレイス・ジェイコブソン	教員
76	2月11日	石垣 直	教員
77	2月11日	稲福 みき子	教員
78	2月11日	江上 幹幸	教員
79	2月11日	ダグラス・ドライスタット	教員
80	2月11日	鳥山 淳	教員
81	2月11日	藤波 潔	教員
82	2月11日	上田 幸彦	教員
83	2月11日	小柳 正弘	教員
84	2月11日	平山 篤史	教員
85	2月11日	知名 孝	教員
86	2月11日	井村 弘子	教員
87	2月11日	泊 真児	教員
88	2月11日	三村 和則	教員
89	2月11日	保良 昌徳	教員
90	2月11日	山入端 津由	教員
91	2月11日	徳原 峰一	職員
92	2月11日	知念 勇仁	職員
93	2月11日	比嘉 綾子	職員
94	2月11日	高吉 いくみ	職員
95	2月11日	比嘉 美昭	職員
96	2月11日	池之内 かおり	職員
97	2月11日	崎原 司	職員
98	2月11日	普久原 朝保	職員
99	2月11日	金城 智子	職員
100	2月11日	水村 千恵子	職員

NO.	日付	寄付者	備考
101	2月11日	嶺井 かおり	職員
102	2月14日	安仁屋 宗行	職員
103	2月21日	垣花 聡	職員
104	2月21日	兼村 ゆり香	職員
105	2月21日	新垣 圭子	職員
106	2月21日	仲西かおり(図)	職員
107	2月21日	與儀 真紀	職員
108	2月21日	門口 政秀	職員
109	2月21日	金城 多恵子	職員
110	2月21日	山城 篤男	職員
111	2月21日	西銘 道雄	職員
112	2月21日	金城 洋一	職員
113	2月21日	笹田 章生	職員
114	2月21日	當銘 弘道	職員
115	2月26日	金城 有作	
116	2月26日	ベロート美香	
117	2月26日	大城 美智子	
118	2月26日	大要 子	
119	2月26日	大政 司	
120	2月26日	小林 基裕	
121	2月26日	狩俣 志保	
122	2月26日	狩俣 郁夫	
123	2月26日	狩俣 正三郎	
124	2月26日	狩俣 仁	
125	2月26日	狩俣 弘一	
126	2月26日	玉盛 俊一	
127	2月26日	豊里 丈代	
128	2月27日	徳永 賢治	教員
129	2月27日	野原 三義	
130	2月28日	儀間 一由	後援会
131	3月1日	仲本 兼信	職員
132	3月6日	戴 美君	
133	3月11日	山下 良	教員
134	3月13日	中野 正剛	教員
135	3月14日	仲宗根 仁史	職員
136	3月14日	伊佐 裕	職員

訃 報

屋嘉 宗克
(やか むねかつ)
2月7日、ご逝去。86歳。



【略歴】
沖縄県那覇市出身。昭和51年4月教授に昇任。昭和53年4月学生部長、昭和56年、平成3年短期大学部部長を経て、平成7年3月退職。平成7年4月沖縄国際大学名誉教授、平成17年4月「瑞宝小綬章」を受章。本学やの校歌および県内7小中学校の校歌、沖縄市歌の作詞を手掛けた。

■昇任：事務職員：4月1日付

新職名	氏名	旧職名
図書館図書課課長	富里 珠美	教務部研究支援課課長補佐
総務部総務課主任	友利 祐子	総務部総務課係員
総務部管財課主任	金城 洋一	総務部管財課係員

■任命：事務職員：4月1日付

新配置部署職名	氏名	旧職名
事務局長	屋嘉部 勉	経営政策室 参事

■配置換：事務職員：4月1日付

新配置部署職名	氏名	旧職名
経営政策室参事	大城 健太郎	事務局長
総務部総務部長	山里 肇	教務部教務事務部長
教務部教務事務部長	仲宗根 仁史	総務部総務部長
経営政策室課長	金城 智子	国際交流センター課長
総務部会計課課長	比嘉 美昭	教務部研究支援課課長
国際交流センター課長	山里 洋	経営政策室課長
情報センター課長	玉手 伸彦	総務部会計課課長
入試センター課長	徳原 峰一	学生部キャリア支援課課長
学生部キャリア支援課課長	井口 忠	情報センター課長

教務部研究支援課課長
総務部総務課課長補佐
総務部管財課課長補佐
教務部教学課課長補佐
教務部研究支援課課長補佐
教務部学務課係長
総務部総務課主任
総務部広報企画課係員
学生部学生課係員
学生部キャリア支援課係員
図書館図書課副参事
学生部学生課副参事
総務部会計課副参事
経営政策室副参事

安仁屋 宗行 入試センター課長
中山 かつら 教務部教学課課長補佐
岸本 博樹 教務部学務課課長補佐
照屋 幸伸 総務部管財課課長補佐
呉屋 賢剛 総務部総務課課長補佐
安谷 屋美紀 学生部学生課係長
玉那 覇 淳 総務部広報企画課主任
高吉 いくみ 学生部キャリア支援課係員
大城 鈴香 総務部総務課係員
佐藤 敬明 経営政策室係員
知念 勇仁 学生部キャリア支援課副参事
門口 政秀 図書館図書課副参事
仲本 兼信 学生部学生課副参事
垣花 聡 図書館図書課課長

● 平成25年度 事業計画 ●

I. 大学運営の基本方針

平成25年度から28年度までの4年間の大学運営の基本姿勢、基本方針を示し、それに則って平成25年度事業方針を明確にする。

1 基本姿勢

「大学は、教職員のためではなく、学生と社会のためである」ことを基本姿勢にして運営する。

2 基本目標

「沖縄国際大学は、地域に根ざし世界に開かれた大学を目指し、地域を動かし世界につながる人材を育成する。

3 基本方針

- (1) 自主自立的に協働できるような学内環境をつくる。
- (2) 責任者が責任と権限に基づき透明に業務を遂行する。
- (3) 意思決定は本学使命の実現に寄与するかで判断する。
- (4) 財政基盤の安定化に努めつつイノベーションに取り組んでいく。

4 平成25年度事業運営方針

- (1) 財政安定化の実現を目指しつつ、学修・教育・研究・交流・連携を強化する方向で環境整備を進めていく。
- (2) 学修力・教育力・研究力を向上させる事業を進めていく。
- (3) 学生生活を充実させる事業、特に奨学制度の拡充に取り組んでいく。
- (4) キャリア教育・就職活動支援の強化に取り組んでいく。
- (5) 地域交流・地域連携の拡充強化、特に社会人の生涯学習に取り組んでいく。
- (6) 国際交流・国際連携の拡充強化に取り組んでいく。
- (7) 高大連携を拡充強化しつつ入学支援・学生募集を積極的に進めていく。

II. 大学教育基盤拡充に関する事業

1 キャンパス整備事業

- (1) 施設整備計画事業
- (2) 駐車場整備計画
- (3) EA21 事業
- (4) フェンス等整備事業
- (5) 植栽整備事業計画
- (6) 5号館外壁・屋上防水塗装等改修工事
- (7) 5号館正面入口一部の自動ドア化工事

2 組織機構：責任と権限に基づく効率的執行体制の構築

- (1) 企画・広報と秘書および自己点検・自己評価の業務体制の一体化を進める。
- (2) 自己点検・評価活動の継続的实施
- (3) 責任と権限を明確にする事務組織機構改革を進める。
- (4) 各種委員会制度の見直しを進める。

3 人事制度：職員雇用制度の見直し計画

- (1) 教員定数の確保と教員特任制度の見直しを検討する。
- (2) SD 事業（事務職員資質向上）

- (3) 事務職員制度の見直しを検討する。
- (4) 褒賞・懲罰制度の運用整備を進める。

4 教職員・学生の健康保健管理に関する事業

- (1) 教職員・学生の健康保健管理に関する事業を検討する。

5 防犯防災およびリスク管理に関する事業

- (1) 危機管理体制の整備充実
- (2) 危機管理委員会の設立について

6 積極的大学広報に関する事業

- (1) アナログ情報のデジタル化移行作業に関する計画
- (2) 本学ウェブサイト情報の一元化に関する事業
- (3) 本学ウェブサイト情報の多言語化推進に関する事業

III. 教育・学修・研究・交流・連携に関する事業

1 教育・学修に関する事業

- (1) 学部教育（学部学科）
- (2) 教職課程の強化
- (3) 大学院教育
- (4) 組織的FDの推進
- (5) 教育支援者（SA・TA）制度の活用促進
- (6) 産学官連携教育
- (7) インターンシップ教育
- (8) 教員免許状更新講習の実施

2 学生支援に関する事業

- (1) 学生生活支援に関する事業
- (2) 学生活動に関する事業

3 入学・キャリア支援に関する事業

- (1) 学生募集・入学者支援に関する事業
- (2) キャリア教育・就職活動支援事業

4 研究支援に関する事業

- (1) 個人研究および共同研究を促進する。
- (2) 科研費による研究事業を促進する。
- (3) 研究所事業（総合研究機構所蔵図書の登録・管理運用）
- (4) 産学官連携研究事業を促進する。
- (5) 受託研究事業を促進する。
- (6) その他研究支援事業促進する。

5 国際交流・連携及び特別語学教育の強化に関する事業

- (1) 国際交流連携強化事業
- (2) 国際交流・連携に関する事業
- (3) 特別語学教育強化に関する事業

6 地域貢献・連携に関する事業

- (1) 公開講座を強化し、社会人生涯学習の強化事業について検討する。
- (2) セミナーハウス活用の活性化事業について検討する。
- (3) 後援会との連携強化事業について検討する。
- (4) 校友会との連携強化事業について検討する。
- (5) 宜野湾市や地域との連携強化事業について検討する。
- (6) 産業界や各種団体との連携強化事業について検討する。
- (7) その他地域貢献・連携に係る事業について検討する。

7 図書館・情報メディア環境に関する事業

- (1) 図書館利用の活性化と図書館サービスの拡充
- (2) 情報メディア環境の整備強化事業

IV. 財政基盤の安定化（予算編成方針）

大学は人材育成を通じて社会に貢献することが使命である。本学がその使命を長期的・安定的・持続的に果たしていくために確固たる財政基盤の確立が不可欠である。

大学を取り巻く社会経済環境は非常に厳しい状況にある。大学数は平成元年の499大学から平成24年度には783大学に増えている。大学全入時代に入り、二極化傾向が進み、入学定員充足率100%未満の大学が増えて、246大学、46%が定員割れを起している。18大学が定員50%未満となっ

ている。文部科学省は、メリハリのある私学助成を進めていくとしており、国庫補助金の増額が期待される状況にはなく、私立大学を取り巻く状況は厳しい状況が続いていくものと予想される。

現在、本学の収支状況、経営状況については、大きな問題はないが、今後、学生等納付金による収入は増加の見通しが全く立たず、一定を維持することがやっとならう。むしろ、大学を取り巻く現下の社会経済情勢において、収入減少を計画的に見込まざるを得ない。したがって、支出節減に集中的に取り組んでいく。

平成25年度の予算編成は、収入一定で事業効果を最大にすると同時に、経費節減に集中的に取り組む。

平成25年度予算(概要)

本学予算は、文部科学省令「学校法人会計基準」に拠って作成されたもので、資金収支予算（資金運用の状態）と消費収支予算（経営維持の状態）の2種類からなっています。平成25年度予算（収入、支出の見積）資金収支予算および消費収支予算の概要は下表のとおりです。

●資金収支予算

単位：円

収入の部			
科目	平成25年度予算	平成24年度予算	増減
学生生徒等納付金収入	4,631,135,000	4,628,303,000	2,832,000
手数料収入	80,362,000	79,998,000	364,000
寄付金収入	50,280,000	56,950,000	△6,670,000
補助金収入	348,133,000	341,166,000	6,967,000
資産運用収入	67,678,000	73,587,000	△5,909,000
資産売却収入	0	0	0
事業収入	12,655,000	12,945,000	△290,000
雑収入	168,121,000	169,358,000	△1,237,000
借入金収入	0	0	0
前受金収入	2,045,778,000	2,047,687,000	△1,909,000
その他の収入	1,209,411,000	1,290,228,984	△80,817,984
資金収入調整勘定	△2,234,084,000	△2,093,988,415	△140,095,585
前年度繰越支払資金	11,433,965,233	11,162,787,167	271,178,066
収入の部合計	17,813,434,233	17,769,021,736	44,412,497

単位：円

支出の部			
科目	平成25年度予算	平成24年度予算	増減
人件費支出	2,872,856,000	2,862,102,000	10,754,000
教育研究経費支出	1,278,929,000	1,260,997,000	17,932,000
管理経費支出	222,439,000	217,868,000	4,571,000
借入金等利息支出	8,500,000	12,300,000	△3,800,000
借入金返済支出	100,000,000	100,000,000	0
施設関係支出	108,587,000	105,446,000	3,141,000
設備関係支出	229,575,000	227,031,000	2,544,000
資産運用支出	920,244,000	632,394,000	287,850,000
その他の支出	1,291,046,000	1,184,843,591	106,202,409
予備費	60,000,000	40,000,000	20,000,000
資金支出調整勘定	△285,881,000	△307,925,088	22,044,088
次年度繰越支払資金	11,007,139,233	11,433,965,233	△426,826,000
支出の部合計	17,813,434,233	17,769,021,736	44,412,497

●消費収支予算

単位：円

消費収入の部			
科目	平成25年度予算	平成24年度予算	増減
学生生徒等納付金	4,631,135,000	4,628,303,000	2,832,000
手数料	80,362,000	79,998,000	364,000
寄付金	52,680,000	59,350,000	△6,670,000
補助金	348,133,000	341,166,000	6,967,000
資産運用収入	67,678,000	73,587,000	△5,909,000
資産売却差額	0	0	0
事業収入	12,655,000	12,945,000	△290,000
雑収入	168,121,000	169,358,000	△1,237,000
帰属収入の部合計	5,360,764,000	5,364,707,000	△3,943,000
基本金組入額	△498,162,000	△402,477,000	△95,685,000
消費収入の部合計	4,862,602,000	4,962,230,000	△99,628,000

単位：円

消費支出の部			
科目	平成25年度予算	平成24年度予算	増減
人件費	2,869,447,000	2,852,207,000	17,240,000
教育研究経費	1,802,330,000	1,751,463,000	50,867,000
管理経費	259,647,000	256,400,000	3,247,000
借入金等利息	8,500,000	12,300,000	△3,800,000
資産処分差額	12,265,000	5,409,000	6,856,000
予備費	60,000,000	40,000,000	20,000,000
消費支出の部合計	5,012,189,000	4,917,779,000	94,410,000
当年度消費収入超過額	0	44,451,000	
当年度消費支出超過額	△149,587,000	0	
前年度繰越消費収入超過額	4,513,961,186	4,469,510,186	
翌年度繰越消費収入超過額	4,364,374,186	4,513,961,186	

寄付者一覧

対象期間:平成24年3月16日～平成25年2月28日

NO.	日付	寄付種別	寄付者	金額	備考
1	3月30日	特別寄付	(株)リゅうせき	1,000,000円	学生サポート奨学金
2	4月5日	特別寄付	沖縄美装管理株式会社 代表取締役 武村周児	100,000円	学生サポート奨学金
3	5月25日	特別寄付	金秀グループ 会長 呉屋守将	1,000,000円	学生サポート奨学金
4	7月6日	特別寄付	沖縄国際大学後援会	51,070,000円	施設費・奨学費・創立40周年記念事業費
5	8月2日	特別寄付	沖縄国際大学校友会	4,550,000円	教育備品費・奨学費・国際交流事業費・創立40周年記念事業費
6	9月20日	特別寄付	久場 トヨ(久場政彦様ご令室)	1,000,000円	学生サポート奨学金
7	10月25日	特別寄付	(有)文正堂	50,000円	第14回ホームページコンテスト
8	10月31日	特別寄付	(株)アイアム	19,633円	第14回ホームページコンテスト
9	11月9日	特別寄付	(株)オーシーシー	20,000円	第14回ホームページコンテスト
10	12月6日	特別寄付	川満享子(本学評議員 川満敏様ご令室)	100,000円	学生サポート奨学金
11	12月12日	特別寄付	チェル(株)沖縄営業所	100,000円	第14回ホームページコンテスト
12	12月28日	特別寄付	(有)モバイルマーケティング オービック	20,000円	第14回ホームページコンテスト
13	1月15日	特別寄付	伊志嶺 和歌子(儀部景俊名誉教授ご令嬢)	50,000円	学生サポート奨学金
14	2月26日	特別寄付	心理ゼミ代表 棚原健次	706,316円	学生サポート奨学金
15	2月28日	特別寄付	(株)沖縄科学AVセンター	200,000円	沖縄国際大学学生サポート基金・沖縄国際大学ボランティア・NPO等活動奨励基金

2013(平成25)年度 入学者選抜試験結果

学科	入試種別	AO			推薦入試			特別入試(前・後期)			一般入試(前期)			一般入試(後期)			センター利用入試(前期)			センター利用入試(後期)			志願者数	合格者数	倍率	編入学(前・後期日程)		
		志願者数	最終合格者数	倍率	志願者数	合格者数	倍率	志願者数	合格者数	倍率	志願者数	合格者数	倍率	志願者数	合格者数	倍率	志願者数	合格者数	倍率	志願者数	合格者数	倍率				志願者数	合格者数	倍率
		法律	58	40	1.45	48	48	1.00	-	-	-	84	55	1.53	13	11(1)	1.30	65	36	1.81	12	3				4.00	280	193
地域行政	118	41	2.88	93	55	1.69	-	-	-	115	59	1.95	23	3	7.67	77	32	2.41	15	3	5.00	441	193	2.28	5	3	1.67	
経済	78	43	1.81	64	60	1.07	2	2	1.00	93	50	1.86	18	8	2.25	61	32	1.91	16	6	2.67	332	201	1.65	7	6	1.17	
地域環境	60	38	1.58	44	44	1.00	4	4	1.00	55	47	1.17	8	7	1.14	42	42	1.00	12	11	1.09	225	193	1.17	1	1	1.00	
企業システム	100	43	2.33	54	54	1.00	2	2	1.00	90	49	1.84	26	6	4.33	63	32	1.97	18	3	6.00	353	189	1.87	12	8	1.50	
産業情報	68	42	1.62	61	58	1.05	2	2	1.00	107	49	2.18	26	6	4.33	46	32	1.44	21	3	7.00	331	192	1.72	5	3	1.67	
日本文化	98	45	2.18	62	56	1.11	6	6	1.00	85	33	2.58	38	7	5.43	85	32	2.66	17	4	4.25	391	183	2.14	3	2	1.50	
英米言語	122	39	3.13	64	60	1.07	5	4	1.25	102	57	1.79	41	9	4.56	96	32	3.00	22	4	5.50	452	205	2.20	7	7	1.00	
社会文化	66	30	2.20	45	40	1.13	2	2	1.00	62	34	1.82	16	8	2.00	49	23	2.13	10	3	3.33	250	140	1.79	5	2	2.50	
人福:福祉	77	34	2.26	49	40	1.23	-	-	-	52	36	1.44	14	5	2.80	45	25	1.80	17	3	5.67	254	143	1.78	5	4	1.25	
人福:心理	95	27	3.52	62	37	1.68	-	-	-	78	30	2.60	26	5	5.20	62	24	2.58	14	2	7.00	337	125	2.70	3	2	1.50	
合計	940	422	2.23	646	552	1.17	23	22	1.05	923	449	1.85	249	75(1)	3.36	691	342	2.02	174	45	3.87	3646	1957	1.86	54	41	1.32	

注:倍率 = 志願者数 / 合格者数 (小数点第3位四捨五入)

注:法律学科合格者数の()については、第2志望での合格者数内数となる。

注:法律学科に一般入試(後期)倍率については、第2志望合格者数()を除いた数字となる。

注:平成25年3月18日現在、線上・追加合格者数は未確定のため合格者数には含まない。

2013(平成25)年度 大学院入学試験 志願者数・合格者数

研究科・専攻	区分	志願者数						合格者数					
		推薦	一般	外国人	社会人	渡日前	合計	推薦	一般	外国人	社会人	渡日前	合計
地域文化研究科	南島文化専攻	5	2	0	1		8	4	1	0	0		5
	英米言語文化専攻	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	1	2
	人間福祉専攻	2	32	0	9		43	1	5	0	2		8
地域産業研究科		8	1	0	1	0	10	5	0	0	1	0	6
法学研究科		0	3	0	17		20	0	0	0	6		6
総合計		15	39	0	28	1	83	10	7	0	9	1	27



『沖縄国際大学学報』は、植物インキを使用し、FMスクリーニングの高精細(AMスクリーニングの約500線相当)で印刷しています。